

令和7年度男女共同参画推進市民意識調査報告

1 実施概要

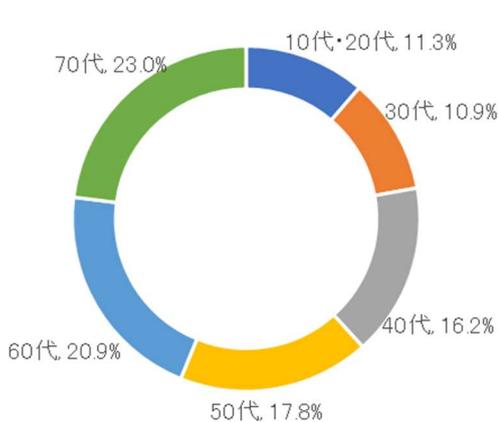
- ・ 対象 18歳以上80歳未満の市民を対象に、性別、年代ごとに住民基本台帳登録者数の3%を無作為抽出（前年度は2%）
- ・ 対象者数 2,321人
- ・ 回答方法 WEBフォームまたは郵送による回答
- ・ 実施期間 令和7年8月14日～9月12日
- ・ 回答者数 570人（前年度比67人↑）
- ・ 回答率 25.6%（前年度比7.7ポイント↓）

※1 各項目で使用した全国の数値は、令和6年9月に実施された「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）を参照した。

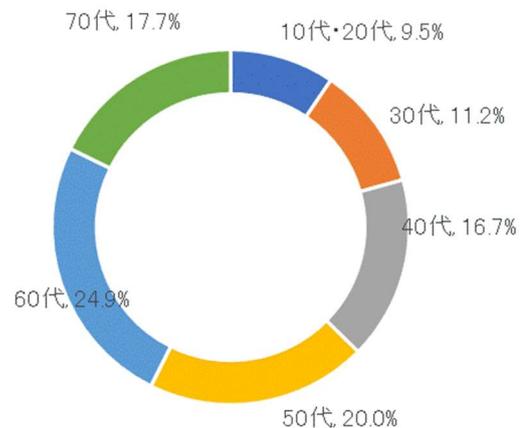
※2 各設問における回答割合の計は、端数処理又は複数回答の影響で100%にならないことがある。

2 対象者数、回答数、回答率

年齢	対象者数				回答数						回答率
	男	女	合計	割合	男	女	その他	答えたくない	合計	割合	
10代・20代	139	123	262	11.3%	22	31		1	54	9.5%	20.6%
30代	134	118	252	10.9%	25	39			64	11.2%	25.4%
40代	195	180	375	16.2%	44	50		1	95	16.7%	25.3%
50代	211	203	414	17.8%	47	64	1	2	114	20.0%	27.5%
60代	243	241	484	20.9%	61	79	1	1	142	24.9%	29.3%
70代	261	273	534	23.0%	49	48		4	101	17.7%	18.9%
計	1,183	1,138	2,321		248	311	2	9	570		24.6%



対象者割合

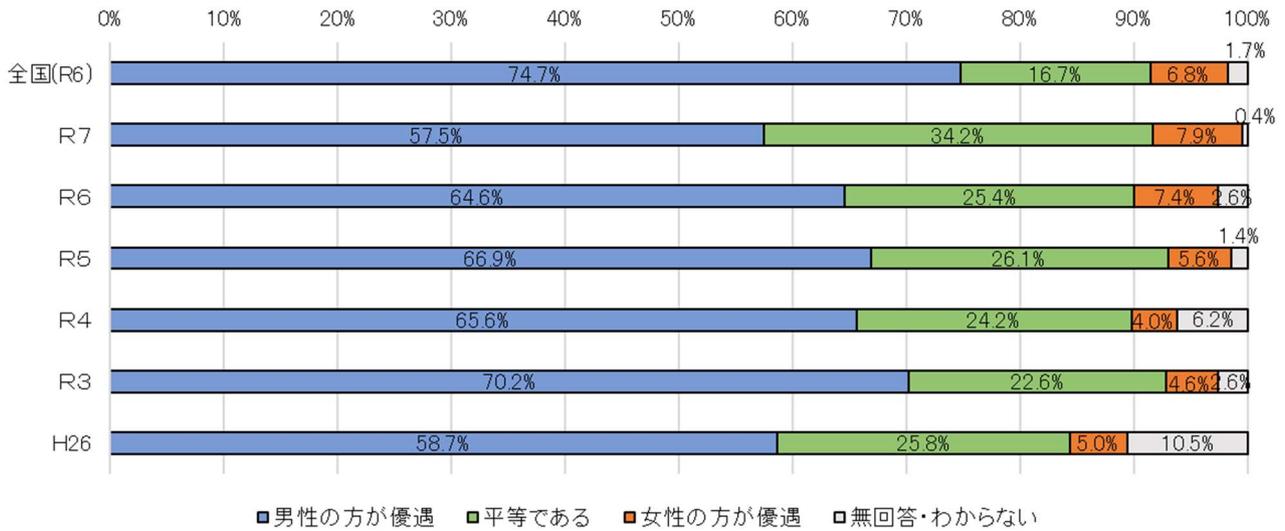
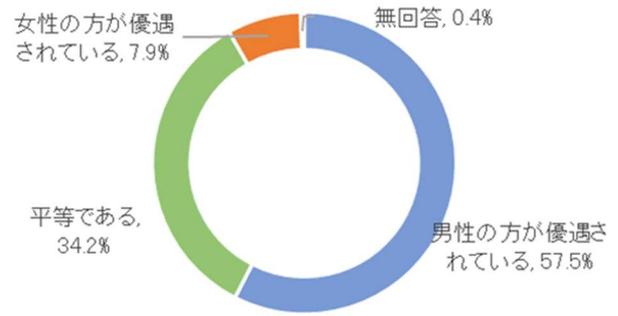


回答割合

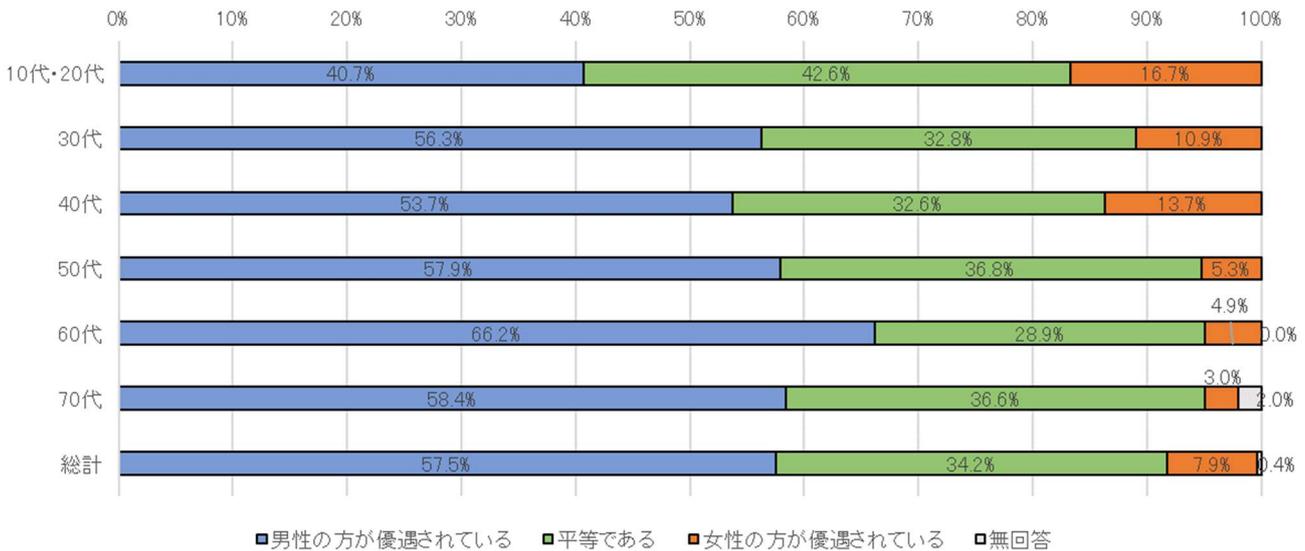
- 回答率は、年代が上がるにつれて上昇しています。
- 回答数は、60代が最も多く、全体の約4分の1となっています。

設問1 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(1つ選択)

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	328	57.5%
平等である	195	34.2%
女性の方が優遇されている	45	7.9%
無回答・わからない	2	0.4%
全体	570	100.0%



○ 年代による比較



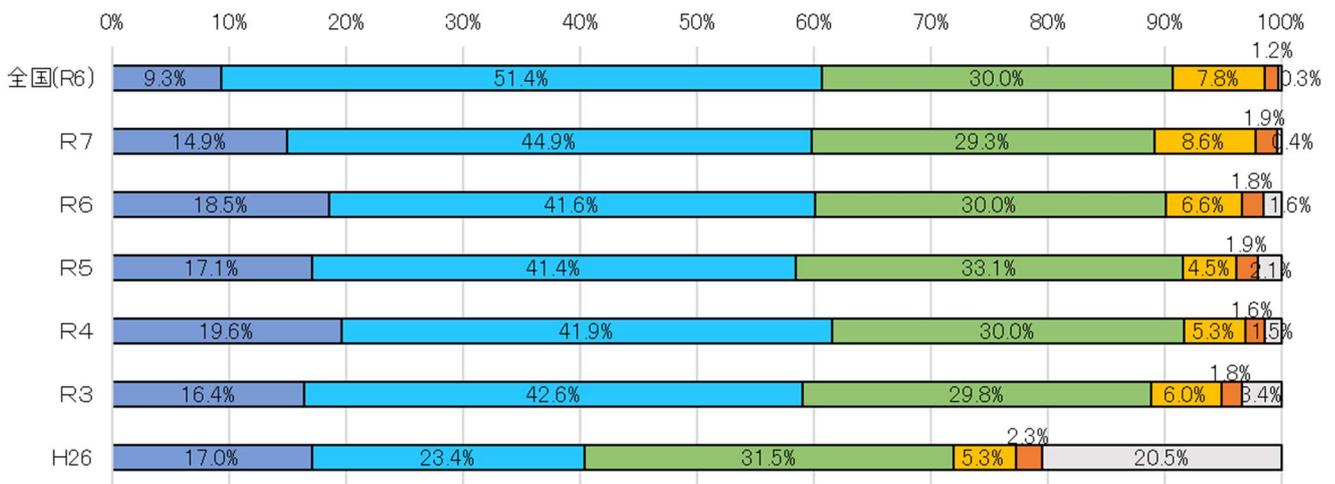
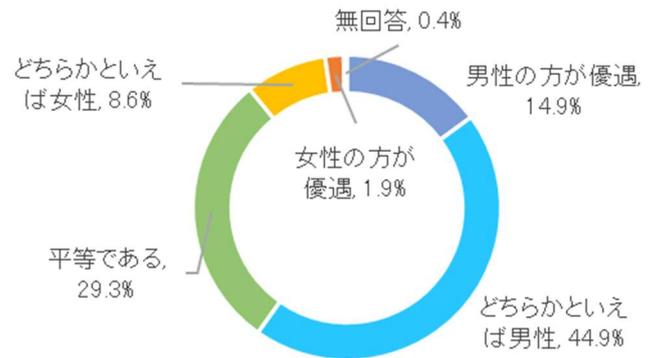
○ 全体では、「平等である」の割合が34.2%と、令和6年度に実施した前回調査（以下、「前回調査」という。）を8.8ポイント上回りました。また、全国調査を17.5ポイント上回っています。

○ 年代別では、「平等である」の割合が最も高い10代・20代で42.6%となっています。

設問2 次にあげる各場面において、あなたの身の回りでは男女平等になっていると思いますか。(1つ選択)

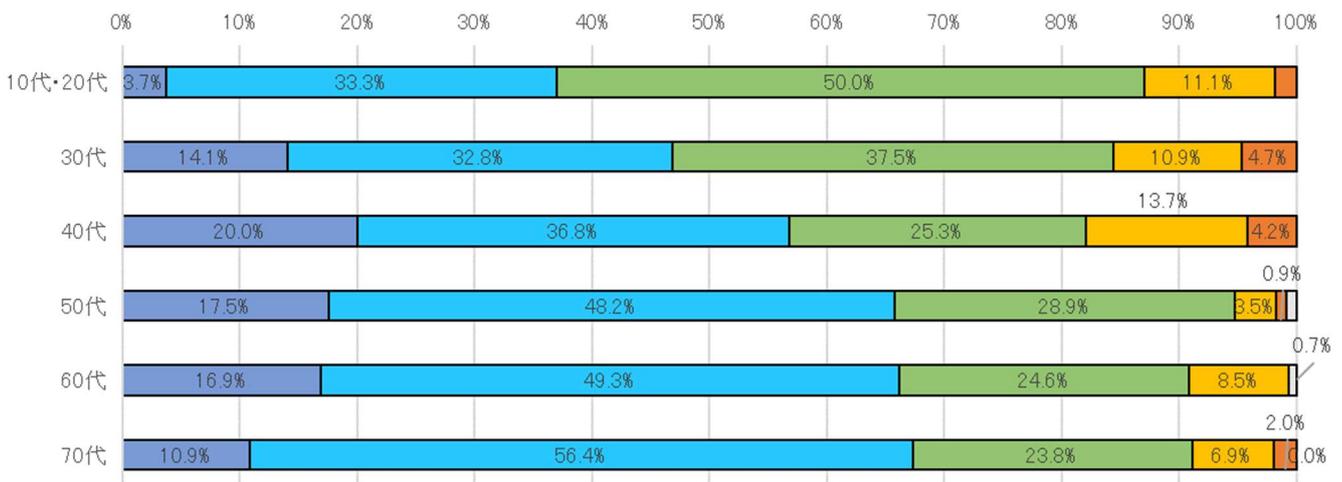
① 家庭生活

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	85	14.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	256	44.9%
平等である	167	29.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	49	8.6%
女性の方が優遇されている	11	1.9%
無回答	2	0.4%
合計	570	100.0%



■男性の方が優遇 ■どちらかといえば男性 ■平等である ■どちらかといえば女性 ■女性の方が優遇 □無回答

○ 年代による比較



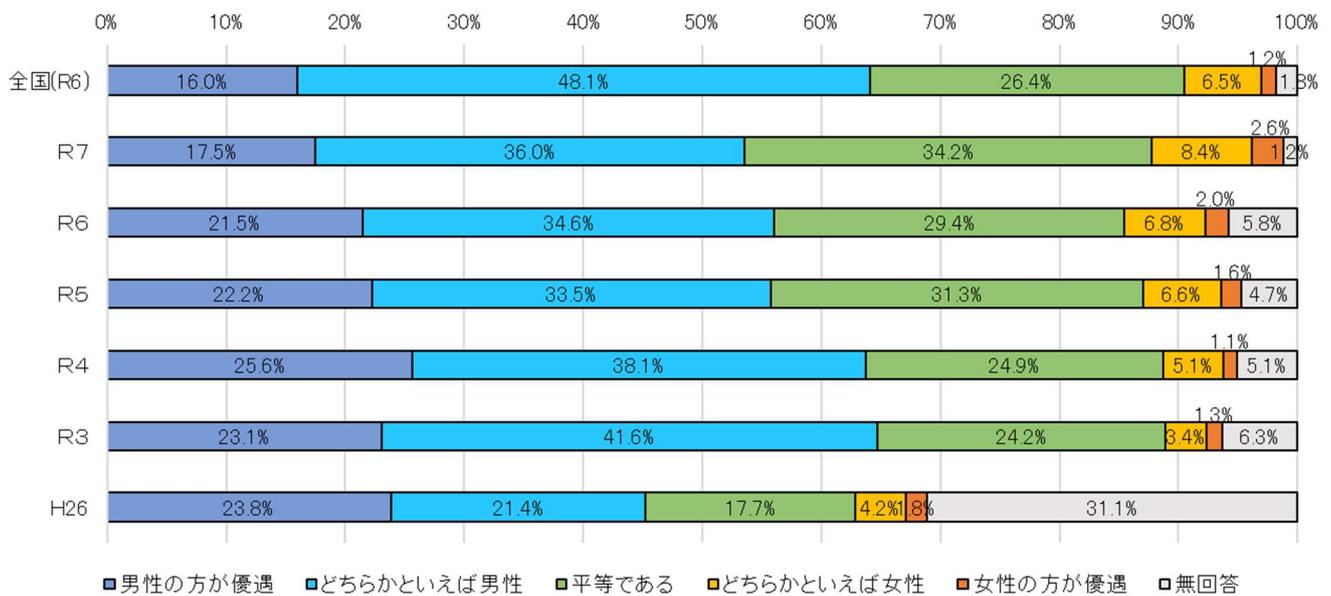
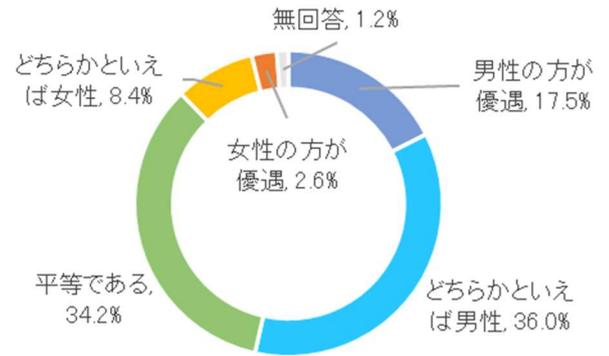
■男性の方が優遇 ■どちらかといえば男性 ■平等である ■どちらかといえば女性 ■女性の方が優遇 □無回答

- 全体では「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が、約6割となっています。
- 年代別では、「平等である」の割合は、10代・20代が50.0%で最大、70代が23.8%で最小になっています。

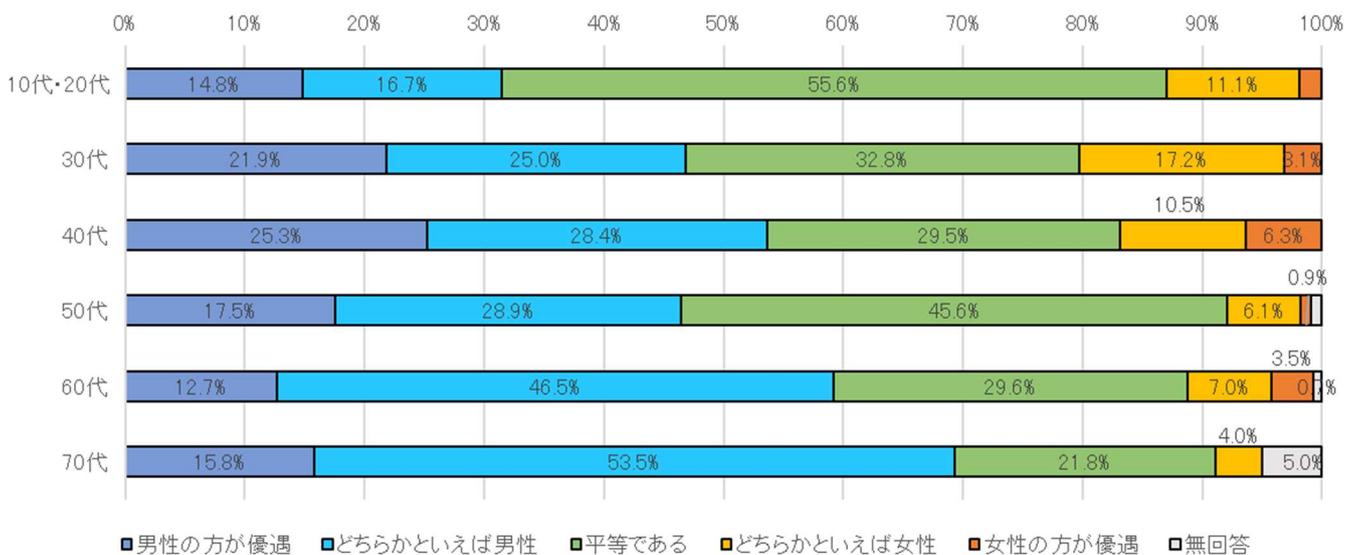
設問2

② 職場

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	100	17.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	205	36.0%
平等である	195	34.2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	48	8.4%
女性の方が優遇されている	15	2.6%
無回答	7	1.2%
合計	570	100.0%



○ 年代による比較



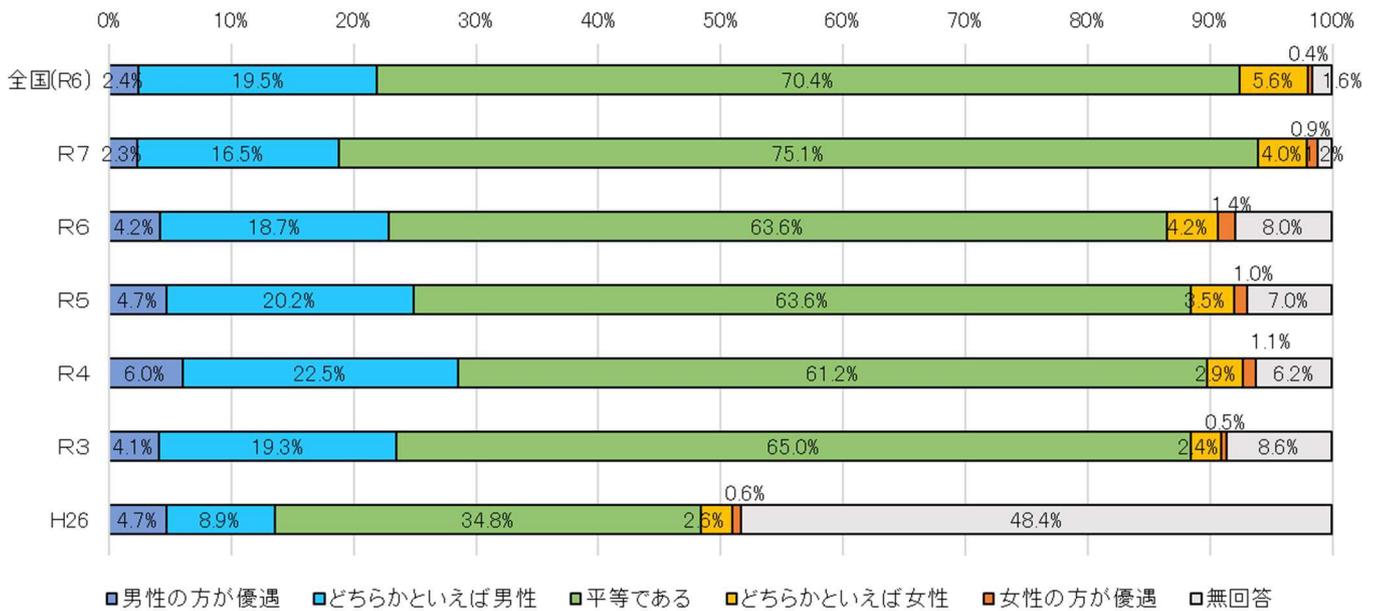
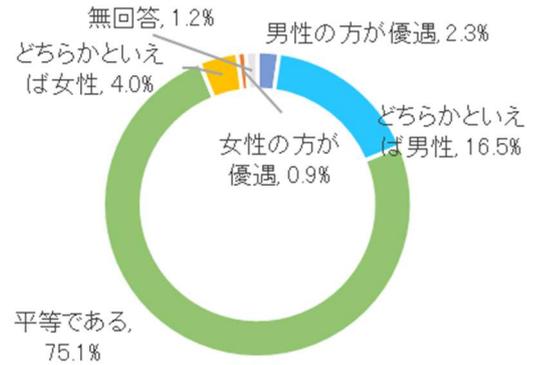
○ 全体では、「平等である」と回答した割合が34.2%となり、前回の調査から4.8ポイント増加しました。これは全国調査の結果を7.8ポイント上回っています。

○ 年代別では、「平等である」の割合は、10代・20代が55.6%で最大、70代が21.8%で最小となっています。

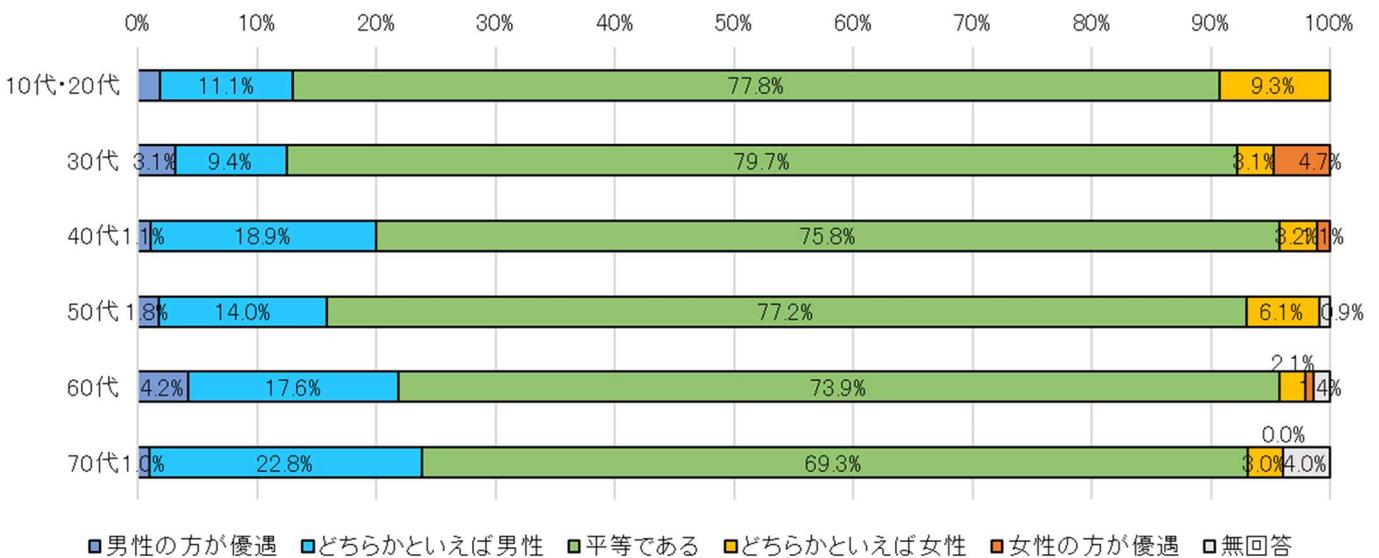
設問2

③ 学校教育の場

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	13	2.3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	94	16.5%
平等である	428	75.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	23	4.0%
女性の方が優遇されている	5	0.9%
無回答	7	1.2%
合計	570	100.0%



○ 年代による比較

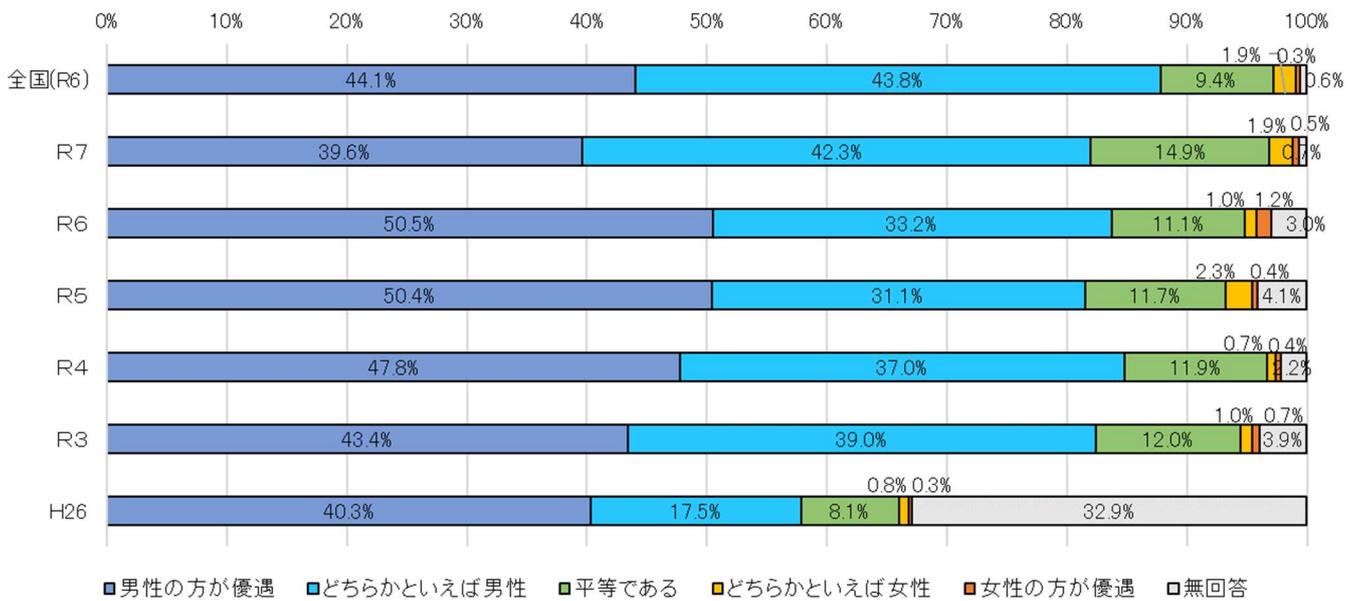
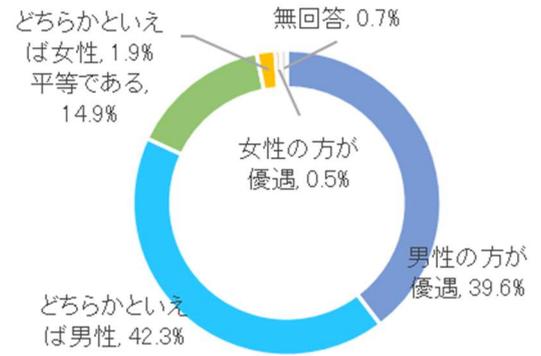


- 全体では、「平等である」の割合が 75.1%と、全国調査を 4.7 ポイント上回っています。
- 年代別では、全年代において「平等である」の割合が最も高くなっています。

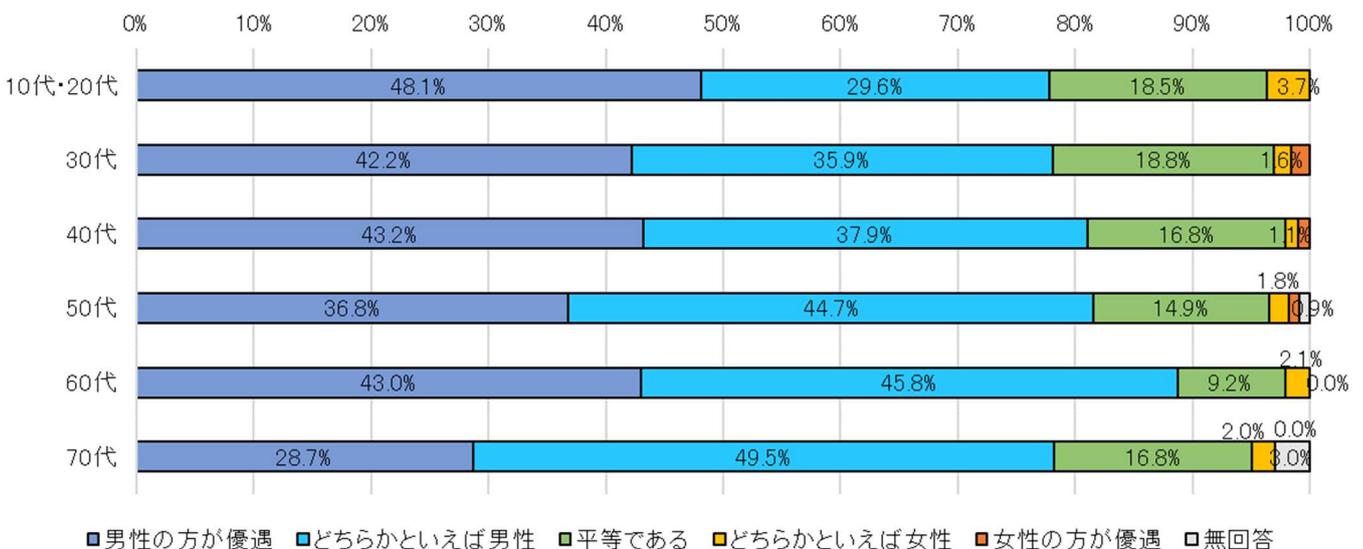
設問2

④ 政治の場

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	226	39.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	241	42.3%
平等である	85	14.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	11	1.9%
女性の方が優遇されている	3	0.5%
無回答	4	0.7%
合計	570	100.0%



○ 年代による比較

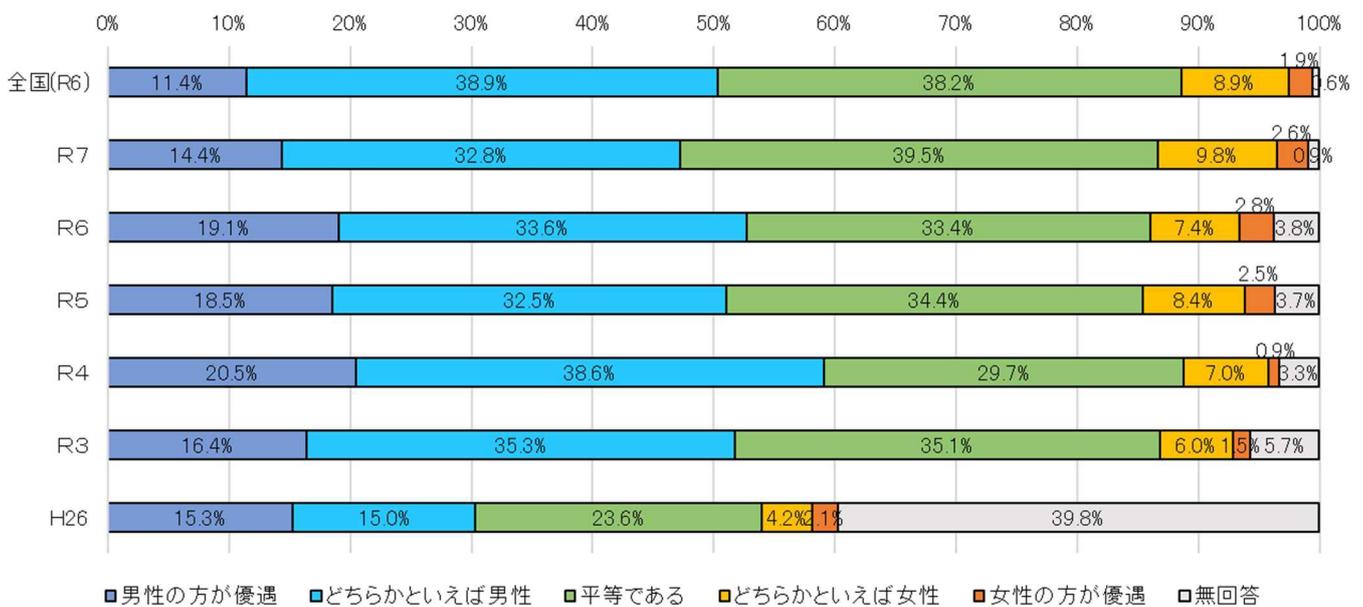
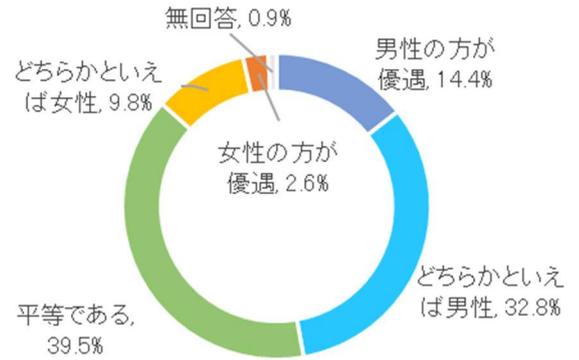


- 全体では、「平等である」の割合が 14.9%と前回調査から 3.8 ポイント増加しました。「男性の方が優遇されている」及び「どちらかというとも男性の方が優遇されている」の割合は、前回調査と同様に 8 割を超えています。
- 年代別に見ても、全年代において「男性の方が優遇されている」及び「どちらかというとも男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。

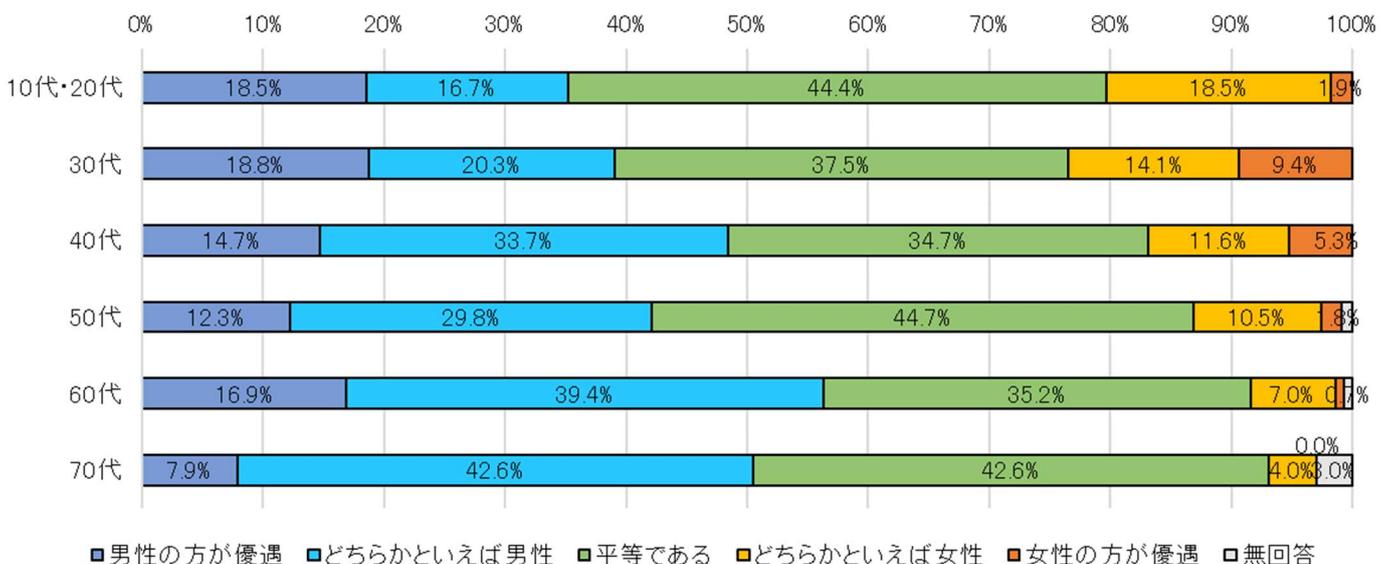
設問2

⑤ 法律や制度上

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	82	14.4%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	187	32.8%
平等である	225	39.5%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	56	9.8%
女性の方が優遇されている	15	2.6%
無回答	5	0.9%
合計	570	100.0%



○ 年代による比較

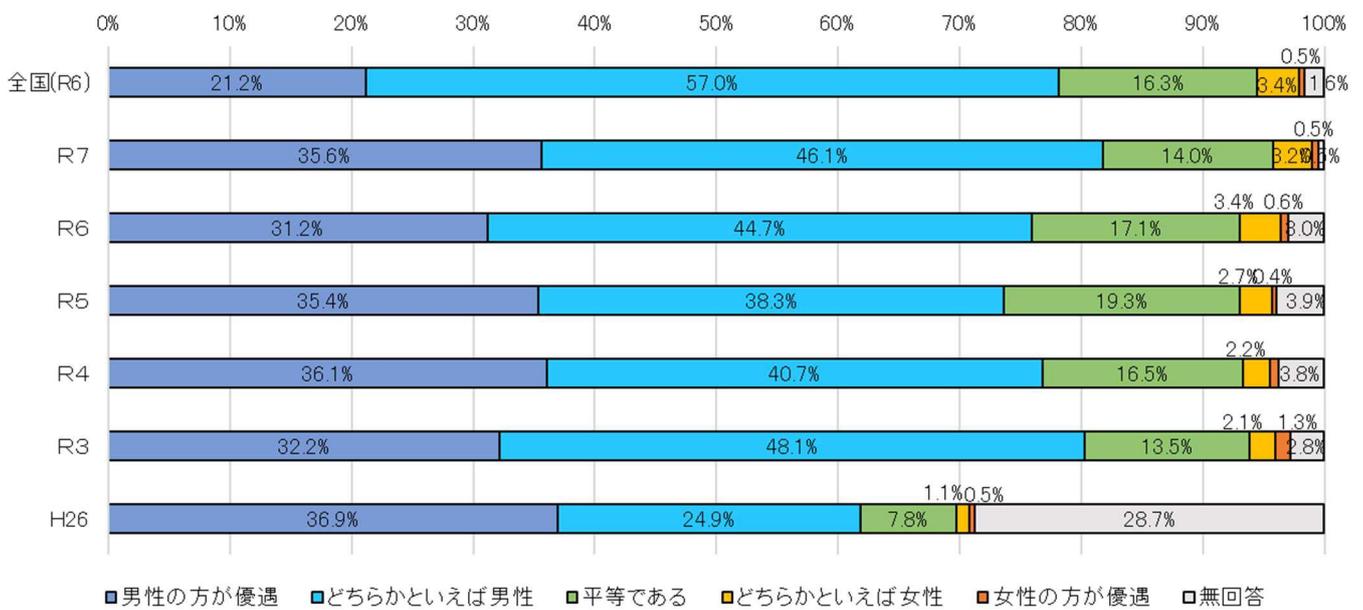
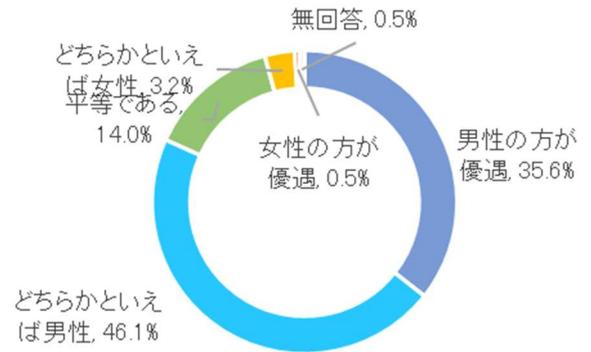


- 全体では、「平等である」の割合が39.5%と、前回調査を6.1ポイント上回りました。
- 年代別では、「平等である」の割合が最も高い50代で44.7%、最も低い40代で34.7%と10ポイントの開きがあります。

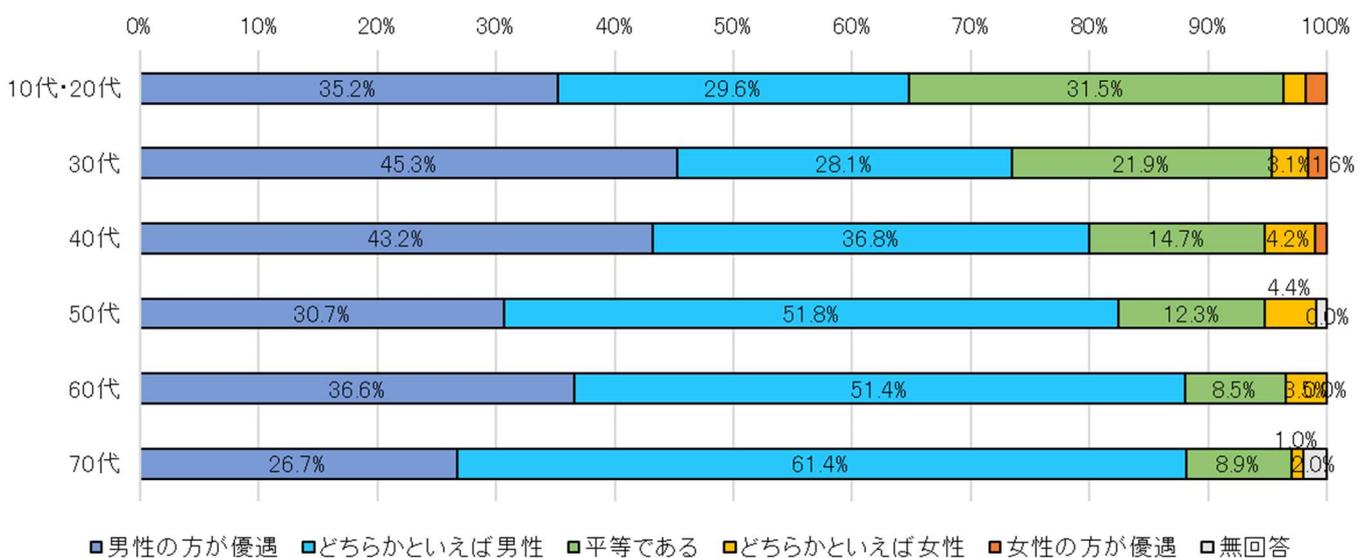
設問2

⑥ 社会通念、習慣、しきたり

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	203	35.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	263	46.1%
平等である	80	14.0%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	18	3.2%
女性の方が優遇されている	3	0.5%
無回答	3	0.5%
合計	570	100.0%



○ 年代による比較

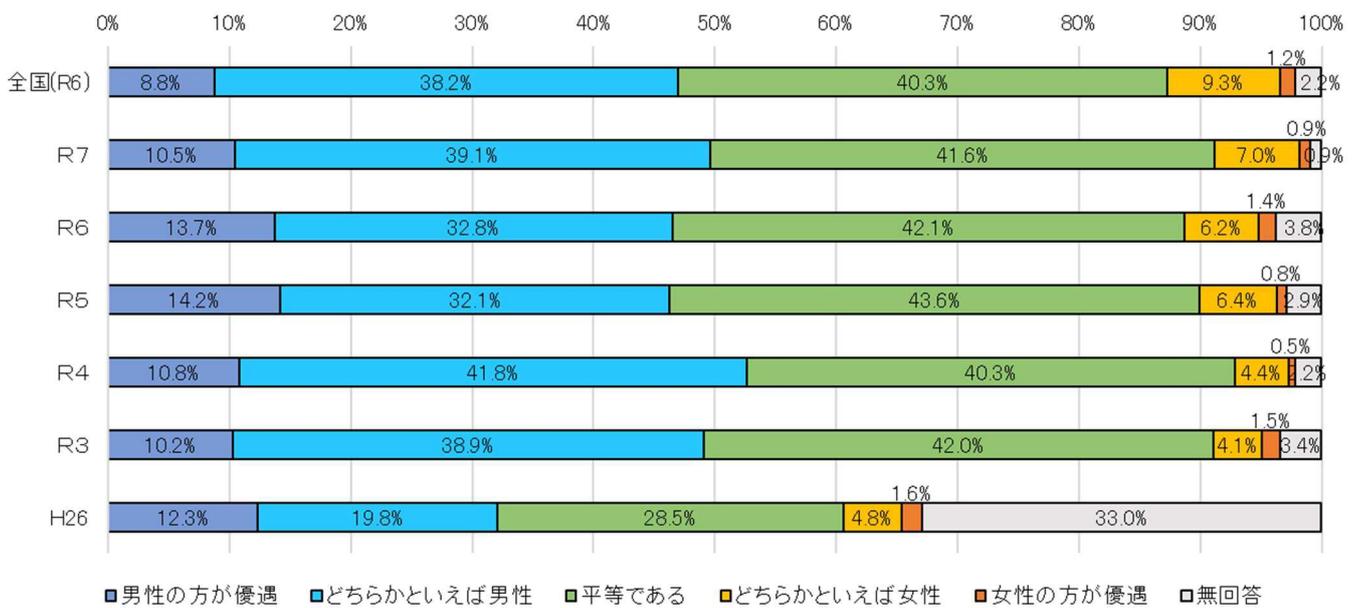
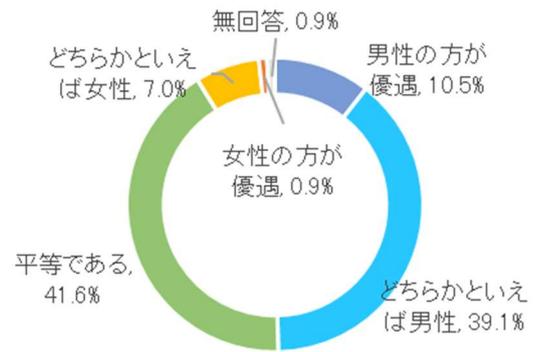


- 全体では、「平等である」の割合が14.0%と、前回調査を3.1ポイント下回りました。
- 年代別では、年代が高くなるほど、「平等である」の割合が低くなる傾向にあります。

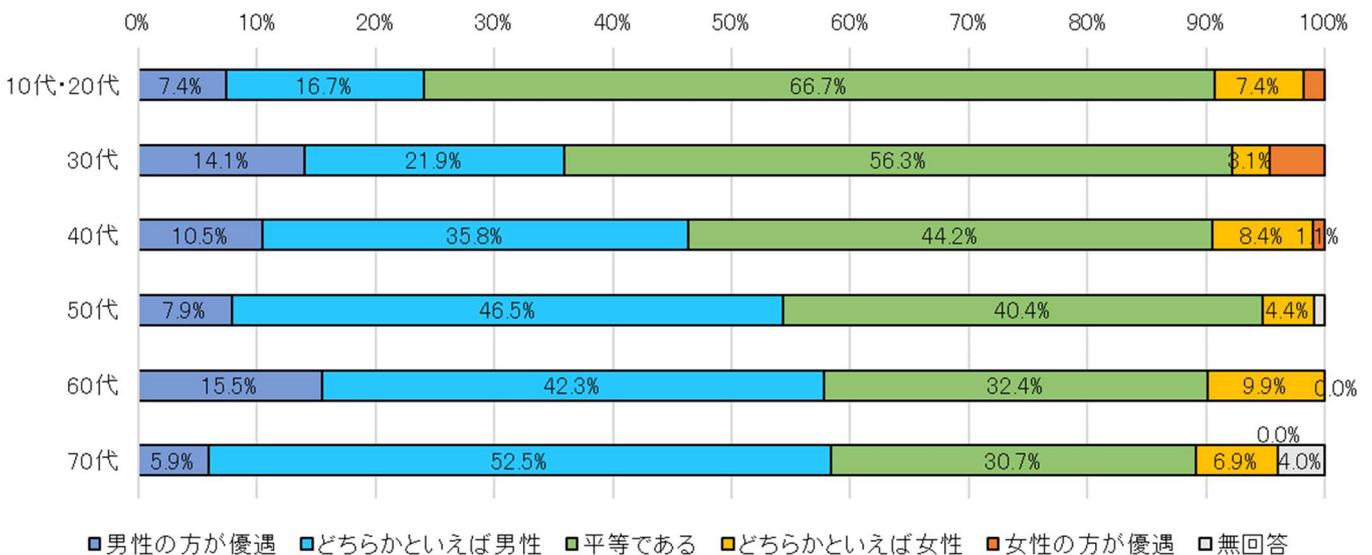
設問2

⑦ 地域活動

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	60	10.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	223	39.1%
平等である	237	41.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	40	7.0%
女性の方が優遇されている	5	0.9%
無回答	5	0.9%
合計	570	100.0%



○ 年代による比較



- 全体では、「平等である」の割合が41.6%と、全国調査より1.3ポイント上回っています。
- 年代別では、「平等である」の割合は10代・20代が66.7%、年代が上がるにつれて割合が減少し、70代では30.7%となっています。

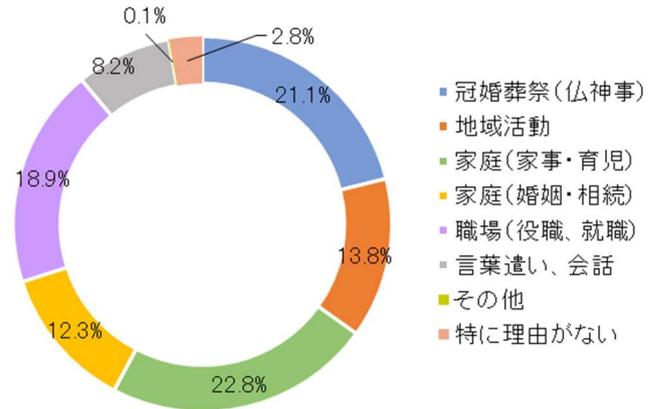
設問2

⑥ a 社会通念、習慣、しきたりの詳細

設問2⑥で、「社会通念、習慣、しきたり」について、男女平等となっているかの問いに対し、その解答に至った具体的な場面を挙げてもらった。

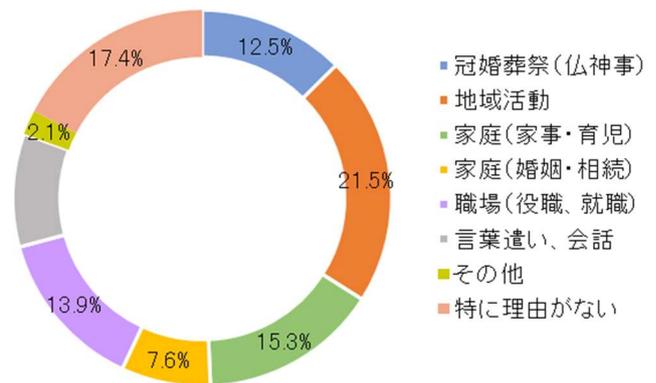
○ 男性の方が優遇されている, どちらかといえば男性の方が優遇されている (回答数 1,152 件)

項目	回答数	割合
冠婚葬祭 (仏神事)	243	21.1%
地域活動	159	13.8%
家庭 (家事・育児)	263	22.8%
家庭 (婚姻・相続)	142	12.3%
職場 (役職、就職)	218	18.9%
言葉遣い、会話	94	8.2%
その他	1	0.1%
特に理由がない	32	2.8%



○ 平等である (回答数 144 件)

項目	回答数	割合
冠婚葬祭 (仏神事)	18	12.5%
地域活動	31	21.5%
家庭 (家事・育児)	22	15.3%
家庭 (婚姻・相続)	11	7.6%
職場 (役職、就職)	20	13.9%
言葉遣い、会話	14	9.7%
その他	3	2.1%
特に理由がない	25	17.4%



○ 女性の方が優遇されている, どちらかといえば女性の方が優遇されている (回答数 20 件)

項目	回答数	割合
地域活動	1	5.0%
家庭 (家事・育児)	3	15.0%
職場 (役職、就職)	2	10.0%
その他	12	60.0%
特に理由がない	2	10.0%

❖ その他の主な回答

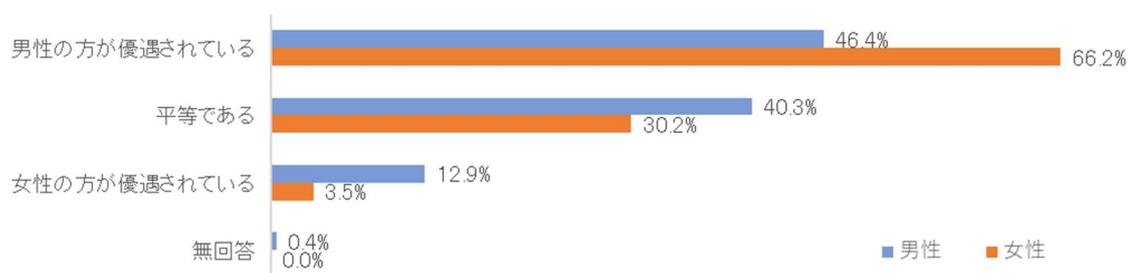
- ・ (男性が優遇) 電車、トイレなど
- ・ (平等) 社会的に見て男性が優位な分野、女性が優位な分野はそれぞれにあると思われる。総合的に見た場合に、平等ではないかと思う。
- ・ (女性が優遇) お店の女性限定サービスなど

○ 「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人は、家事・育児、冠婚葬祭の場面が多かった。

※ 男女別集計 男性：248人、女性：311人、その他2人、答えたくない：9人 合計570人

設問1 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。

項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	115	46.4%	206	66.2%
平等である	100	40.3%	94	30.2%
女性の方が優遇されている	32	12.9%	11	3.5%
無回答・わからない	1	0.4%	0	0.0%
全体	248	100.0%	311	100.0%

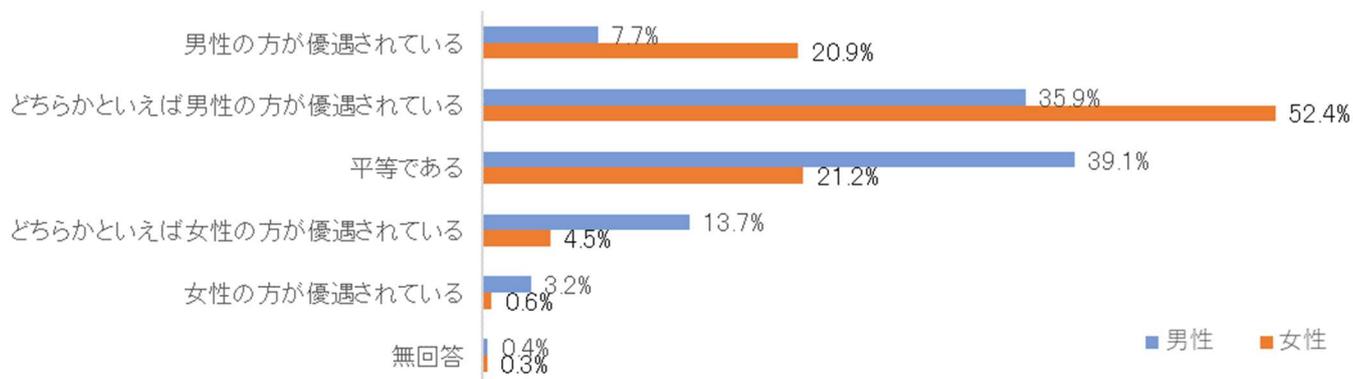


- 「平等である」の割合は男性の方が高くなっています。
- 男性、女性とも、相手の性別を優遇されているとする割合が高くなっています。

設問2 次にあげる各場面において、あなたの身の回りでは男女平等になっていると思いますか。

① 家庭生活

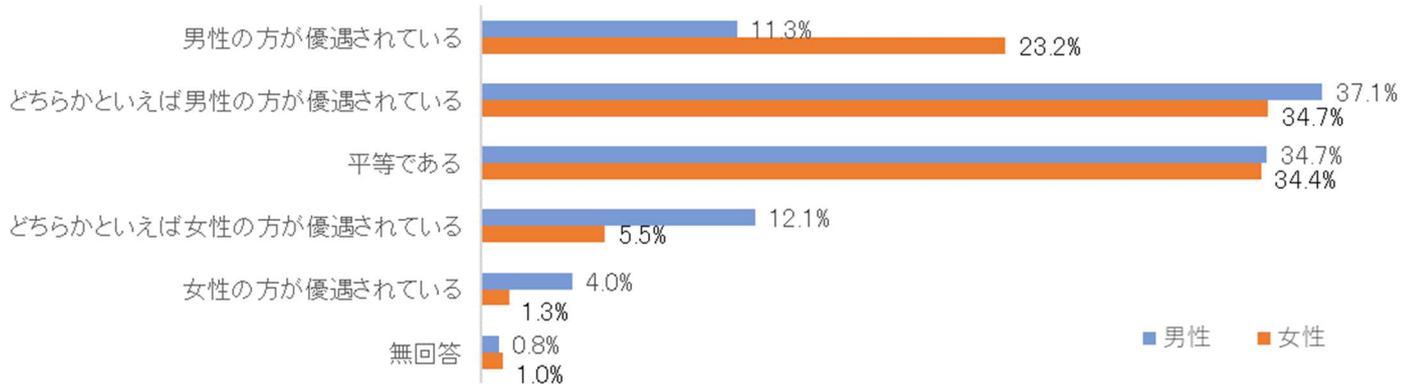
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	19	7.7%	65	20.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	89	35.9%	163	52.4%
平等である	97	39.1%	66	21.2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	34	13.7%	14	4.5%
女性の方が優遇されている	8	3.2%	2	0.6%
無回答	1	0.4%	1	0.3%
全体	248	100.0%	311	100.0%



- 「平等である」の割合は男性の方が高くなっています。
- 男性、女性とも、相手の性別を優遇されているとする割合が高くなっています。

② 職場

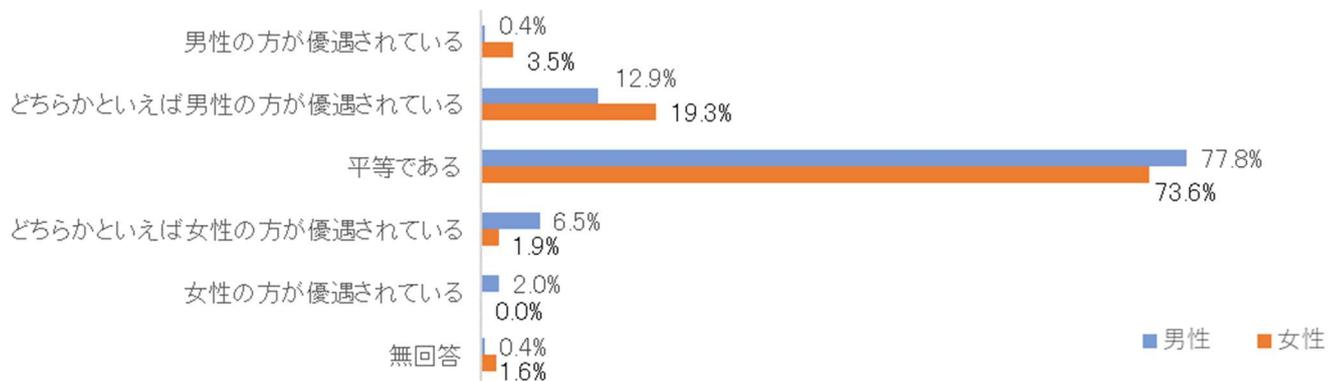
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	28	11.3%	72	23.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	92	37.1%	108	34.7%
平等である	86	34.7%	107	34.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	30	12.1%	17	5.5%
女性の方が優遇されている	10	4.0%	4	1.3%
無回答	2	0.8%	3	1.0%
全体	248	100.0%	311	100.0%



- 「平等である」の割合は男女でほぼ同じとなっています。
- 男性、女性とも、相手の性別を優遇されているとする割合が高くなっています。

③ 学校教育の場

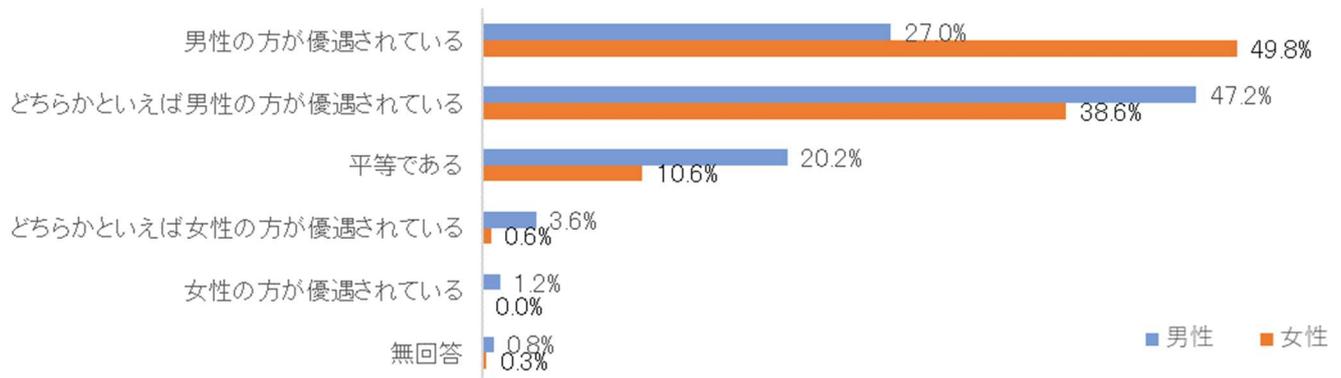
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	1	0.4%	11	3.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	32	12.9%	60	19.3%
平等である	193	77.8%	229	73.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	16	6.5%	6	1.9%
女性の方が優遇されている	5	2.0%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	5	1.6%
全体	248	100.0%	311	100.0%



- 「平等である」の割合は男性、女性とも7割を超えています。

④ 政治の場

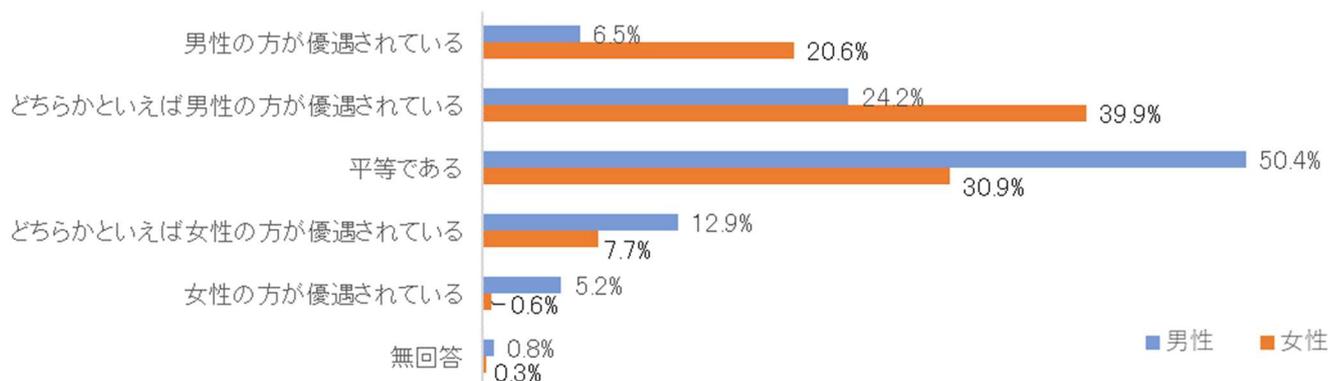
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	67	27.0%	155	49.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	117	47.2%	120	38.6%
平等である	50	20.2%	33	10.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	9	3.6%	2	0.6%
女性の方が優遇されている	3	1.2%	0	0.0%
無回答	2	0.8%	1	0.3%
全体	248	100.0%	311	100.0%



- 「平等である」の割合は男性の方が高くなっています。
- 「女性の方が優遇されている」の割合は男性、女性とも少数です。

⑤ 法律や制度上

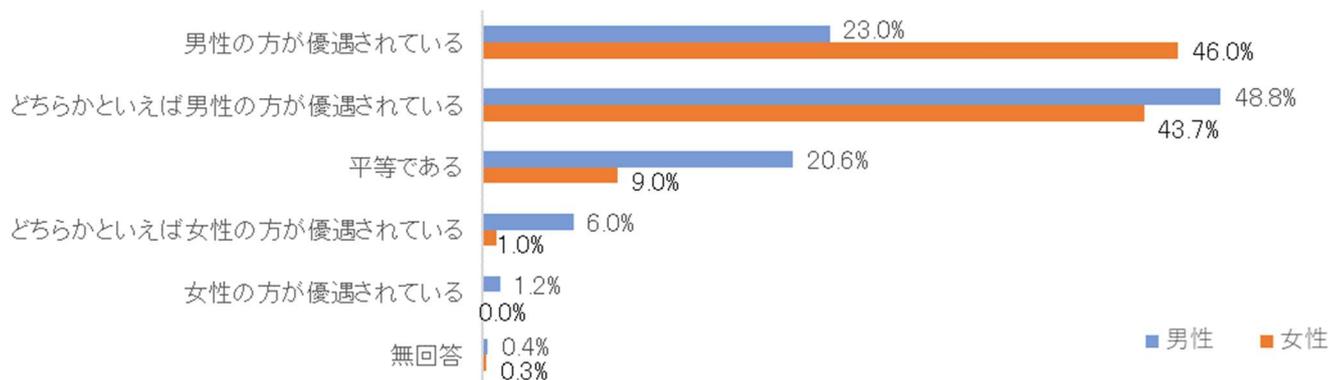
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	16	6.5%	64	20.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	60	24.2%	124	39.9%
平等である	125	50.4%	96	30.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	32	12.9%	24	7.7%
女性の方が優遇されている	13	5.2%	2	0.6%
無回答	2	0.8%	1	0.3%
全体	248	100.0%	311	100.0%



- 「男性の方が優遇されている」の割合は女性の方が高い一方で、「平等である」の割合は男性の方が高くなっています。

⑥ 社会通念、習慣、しきたり

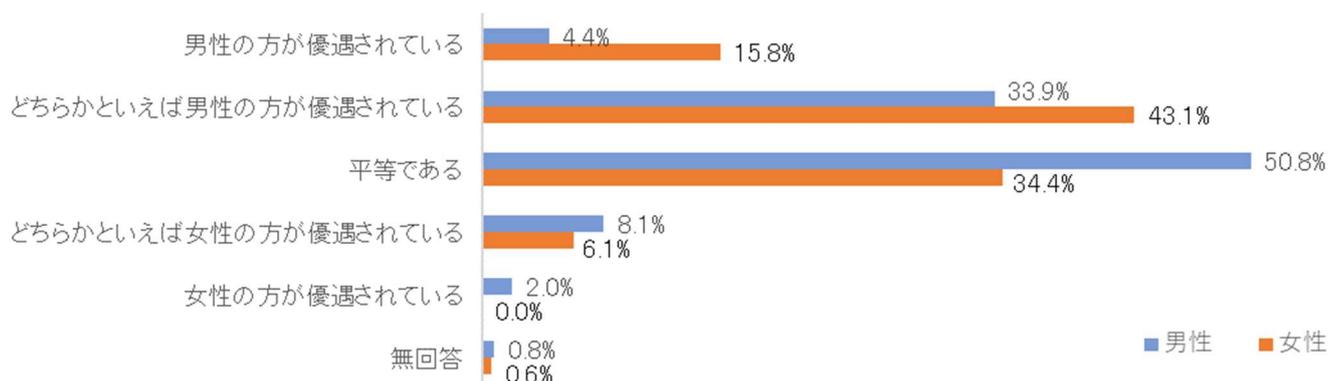
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	57	23.0%	143	46.0%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	121	48.8%	136	43.7%
平等である	51	20.6%	28	9.0%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	15	6.0%	3	1.0%
女性の方が優遇されている	3	1.2%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	1	0.3%
全体	248	100.0%	311	100.0%



- 「平等である」の割合は男性の方が高くなっています。
- 女性の89.7%が、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答しています。

⑦ 地域活動

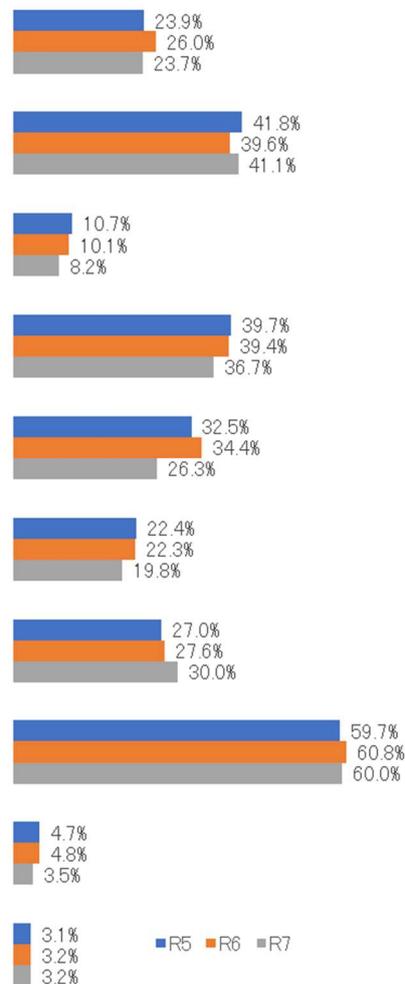
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
男性の方が優遇されている	11	4.4%	49	15.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	84	33.9%	134	43.1%
平等である	126	50.8%	107	34.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	20	8.1%	19	6.1%
女性の方が優遇されている	5	2.0%	0	0.0%
無回答	2	0.8%	2	0.6%
全体	248	100.0%	311	100.0%



- 「平等である」の割合は、男性が女性を上回っています。

設問3 あなたは、「男女共同参画社会」を築いていくために、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで選択）

選択肢	回答数	割合
男女同等に知識や技術などを取得する	135	23.7%
法律や制度、意識の面での見直しを行い、男女差別につながる社会環境を改める	234	41.1%
男女共同参画に関する情報提供や相談窓口の充実を図る	47	8.2%
子どもの時から男女平等教育を徹底させる	209	36.7%
働く場での男女格差をなくすよう、企業などへ意識啓発を行う	150	26.3%
政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	113	19.8%
企業や行政が仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を積極的に進める	171	30.0%
男女が共に働きながら、家事や子育て・介護などを両立できるような支援・サービスを充実させる	342	60.0%
広報紙などで男女平等や相互理解・協力についてPRする	20	3.5%
その他	18	3.2%



n=570

❖ その他の内容（抜粋）

- ・ 男女差があって良いと思う。できることに差がある。お互いに協力し出来ることを分配するのが良いと思う。どんなに頑張っても平等はあり得ないと思う。
- ・ 男女共同参画を言い始めて何年になる？一向に進んでない感じがする。
- ・ 女性が出産しやすく夫婦が子育てをしやすい環境を整備したその先にある話だと思う。女性の社会進出は大いに結構ではあるが、子供を産むことは女性にしかできないので出産を優先的に考えられる社会、出産育児を終えた女性が仕事に戻りやすい社会を形成していくことが重要だと思う。

- 回答数の上位3つはこれまでの調査と同じ傾向となっており、「男女が共に働きながら、家事や子育て・介護などを両立できるような支援・サービスを充実させる」が最も多く、次いで、「法律や制度、意識の面での見直しを行い、男女差別につながる社会環境を改める」「子どもの時から男女平等教育を徹底させる」となっています。

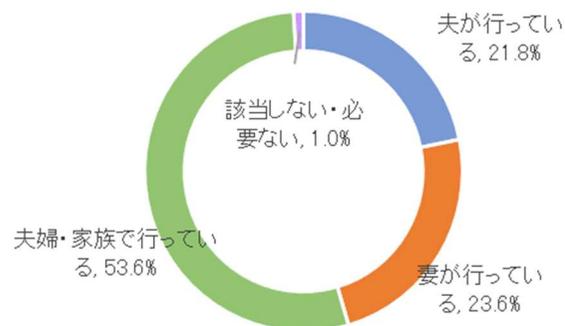
※ 設問4-a・bは、配偶者・パートナーと同居している方のみ回答 / 同居している 394人、同居していない 175人、無回答 1人 合計 570人
 回答者内訳 10代・20代：54人、30代：64人、40代：95人、50代：114人、60代：142人、70代：101人

設問4-a

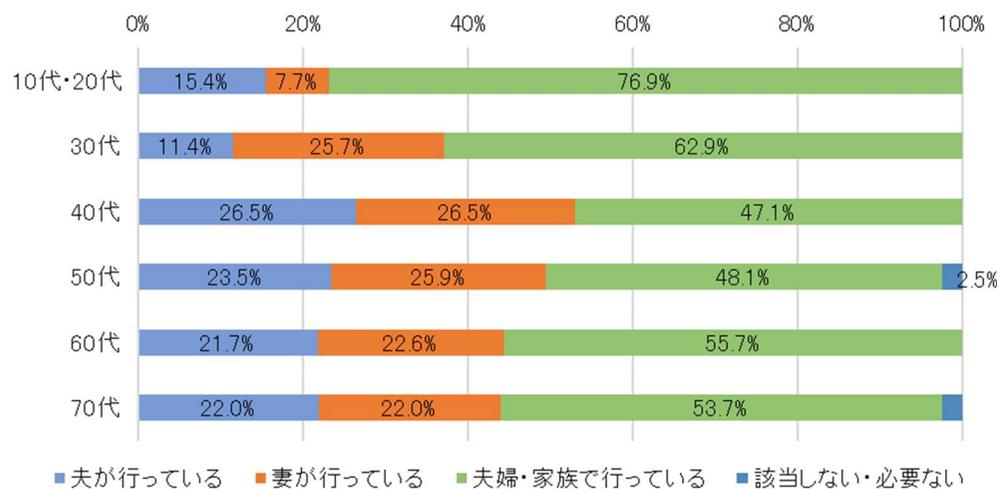
家庭での役割分担の現状について、あなたの家庭では次のようなことを主にどなたが行っていますか。(1つ選択)

① 家計全体のやりくり

項目	回答数
夫が行っている	86
妻が行っている	93
夫婦・家族で行っている	211
該当しない・必要ない	4
合計	394



○ 年代による比較

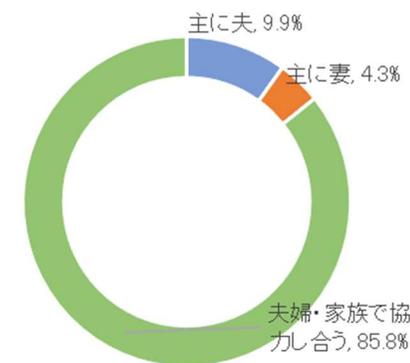


設問4-b

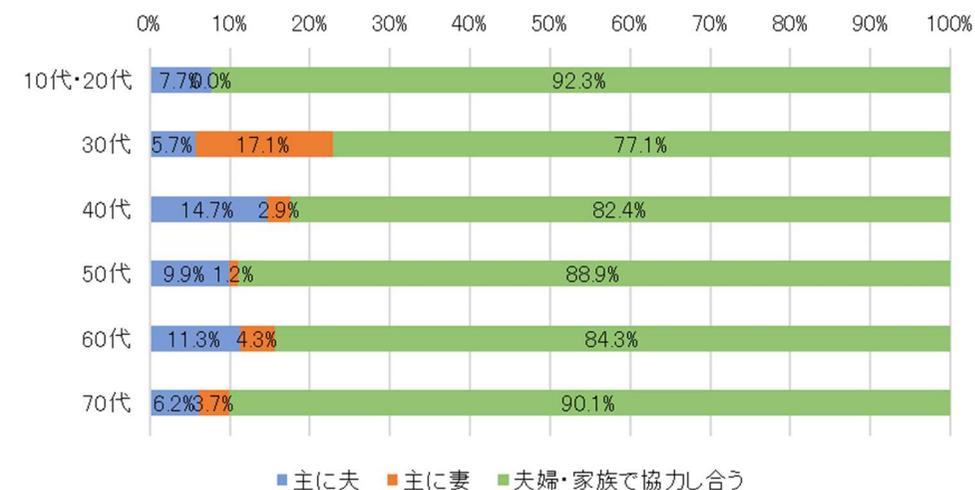
家庭での役割分担の理想について、次のようなことはどのような形が望ましいと思いますか。(1つ選択)

① 家計全体のやりくり

項目	回答数
主に夫	39
主に妻	17
夫婦・家族で協力し合う	337
無回答	0
合計	393



○ 年代による比較

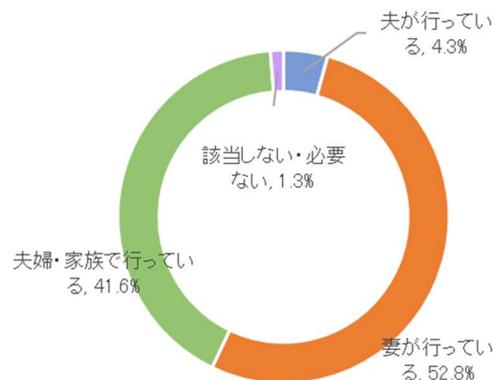


○ 設問4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が最も高く 85.8%となっていますが、設問4-a (実際の家事分担) の割合は 53.6%となっています。

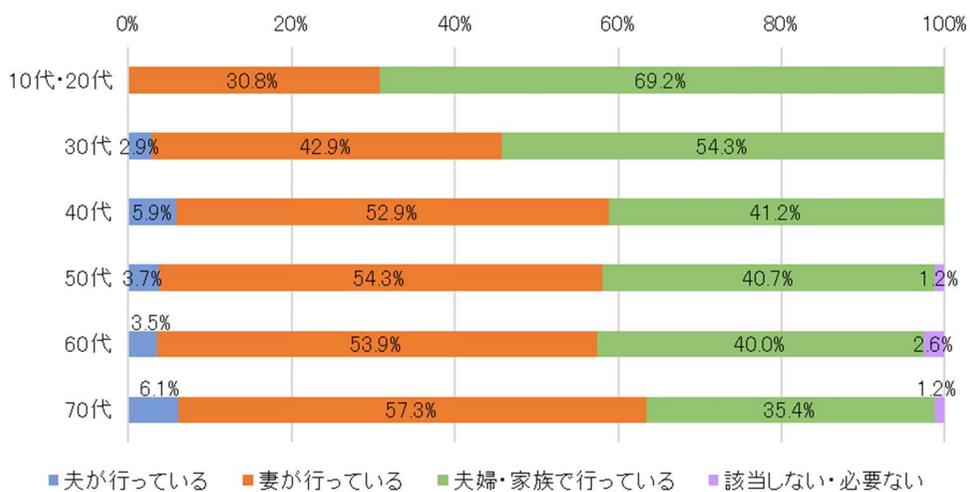
設問 4-a

② 日常の買い物

項目	回答数
夫が行っている	17
妻が行っている	208
夫婦・家族で行っている	164
該当しない・必要ない	5
合計	394



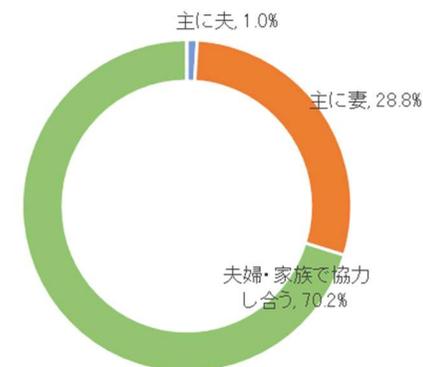
○ 年代による比較



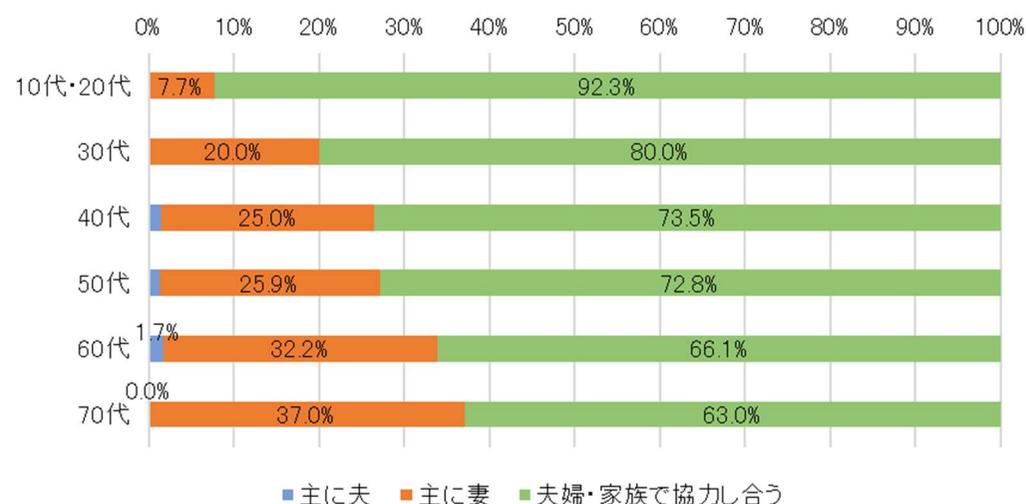
設問 4-b

② 日常の買い物

項目	回答数
主に夫	4
主に妻	113
夫婦・家族で協力し合う	276
無回答	0
合計	393



○ 年代による比較



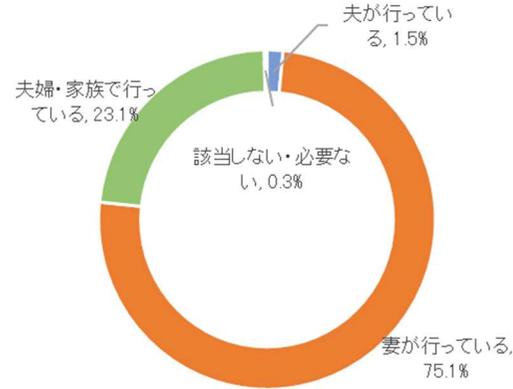
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」が 70.2% となっていますが、設問 4-a (実際の家事分担) では、「妻が行っている」の割合が高く 52.8% となっています。

○ 年代別では、設問 4-b (家事分担の理想) では 30 代以下の世代が「夫婦・家族で協力しあう」の割合が高く、設問 4-a (実際の家事分担) でも「夫婦・家族で協力し合う」の割合は 30 代以下の世代が高くなっています。

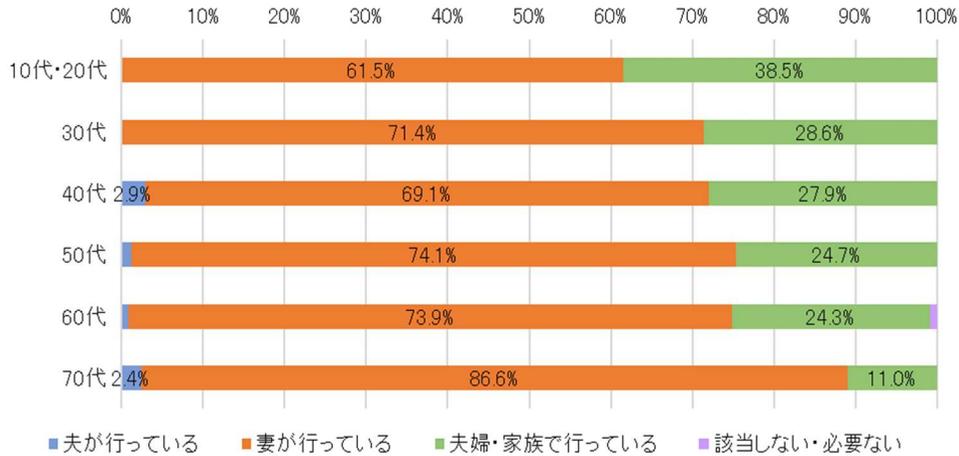
設問 4-a

③ 食事の支度

項目	回答数
夫が行っている	9
妻が行っている	242
夫婦・家族で行っている	59
該当しない・必要ない	1
合計	360



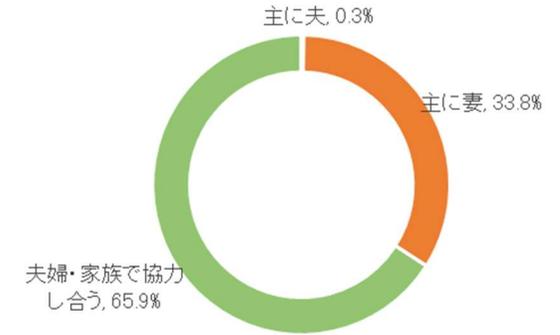
○ 年代による比較



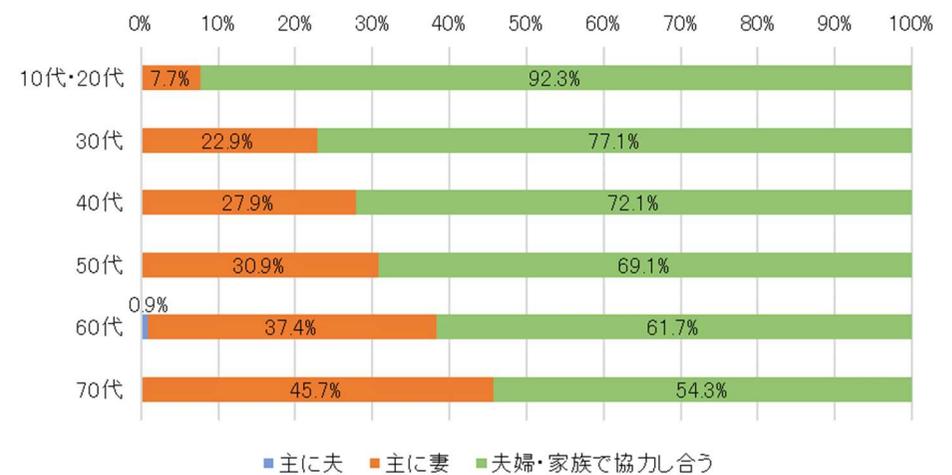
設問 4-b

③ 食事の支度

項目	回答数
主に夫	1
主に妻	133
夫婦・家族で協力し合う	259
無回答	0
合計	393



○ 年代による比較



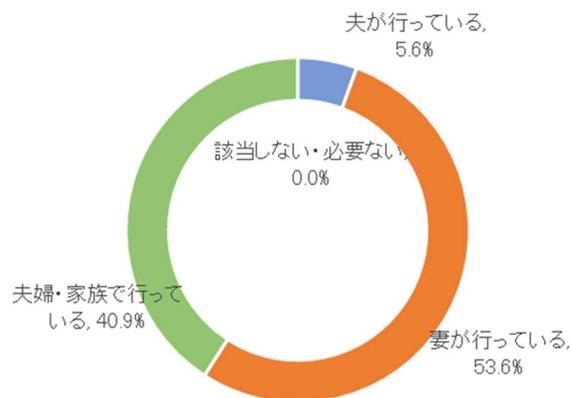
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が 65.9% となっていますが、設問 4-a (実際の家事分担) では、「妻が行っている」の割合が高く 75.1% となっています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、すべての年代において「妻が行っている」の割合が高くなっています。

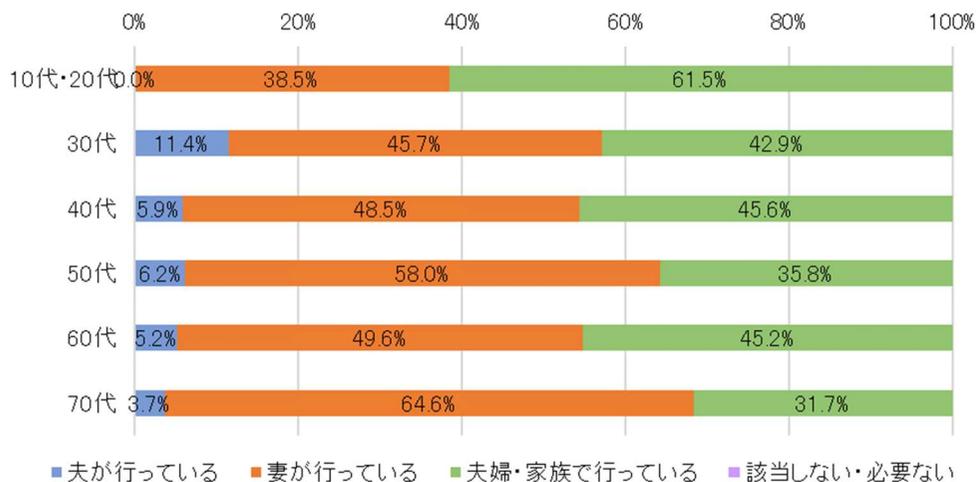
設問 4-a

④ 食事の後片付け

項目	回答数
夫が行っている	22
妻が行っている	211
夫婦・家族で行っている	161
該当しない・必要ない	0
合計	394



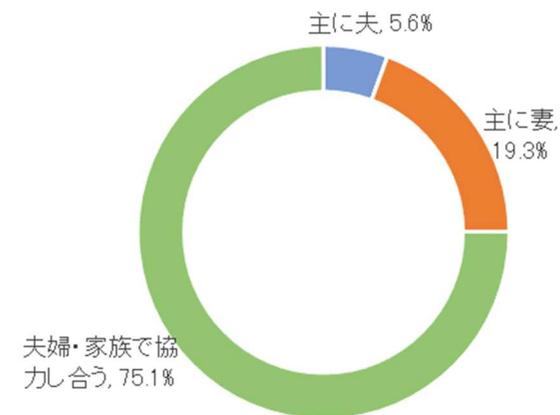
○ 年代による比較



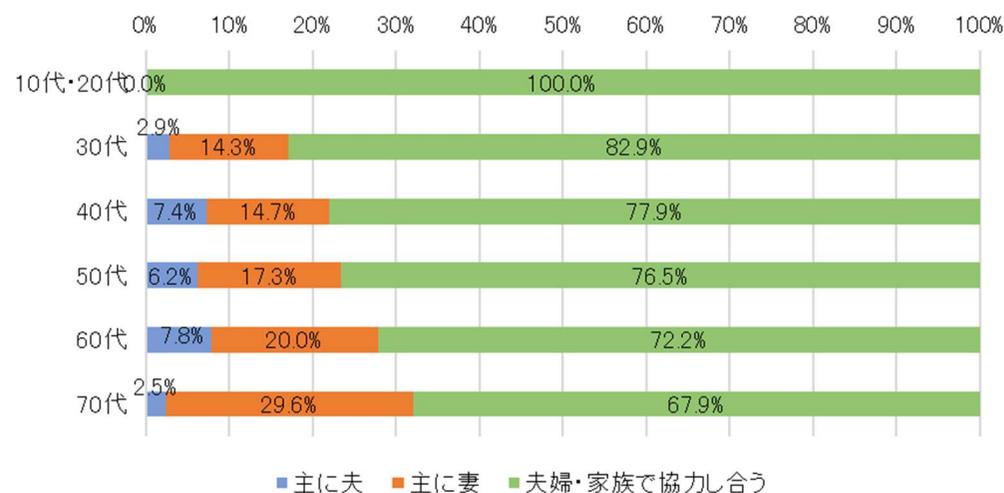
設問 4-b

④ 食事の後片付け

項目	回答数
主に夫	22
主に妻	76
夫婦・家族で協力し合う	295
無回答	0
合計	393



○ 年代による比較



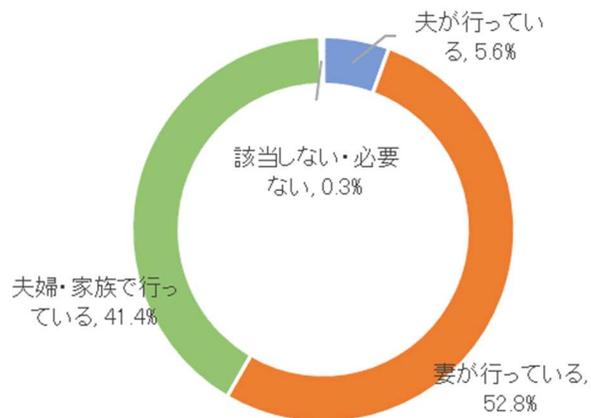
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が 75.1% となっていますが、設問 4-a (実際の家事分担) では、「妻が行っている」の割合が高く 53.6% となっています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、50 代以上で「妻が行っている」の割合が高くなっています。

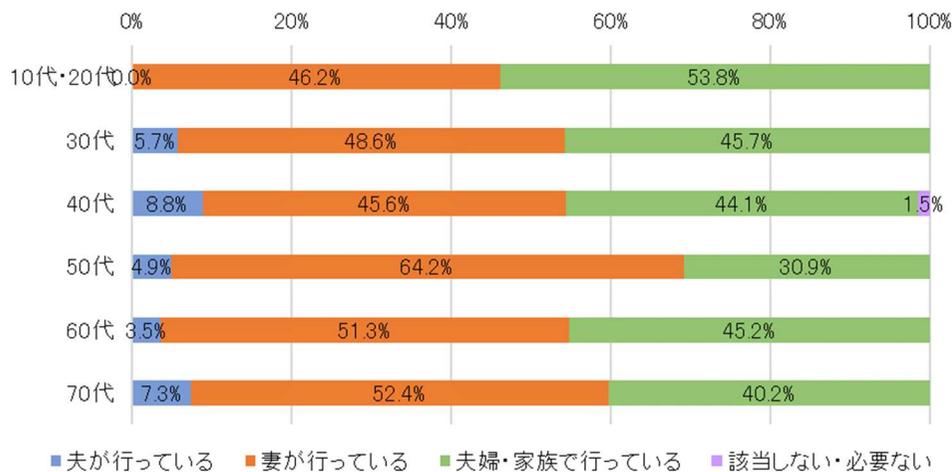
設問 4-a

⑤ 掃除

項目	回答数
夫が行っている	22
妻が行っている	208
夫婦・家族で行っている	163
該当しない・必要ない	1
合計	394



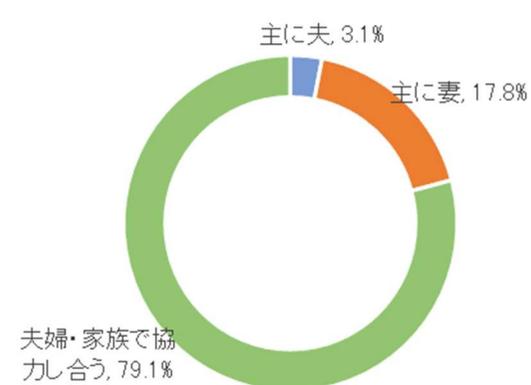
○ 年代による比較



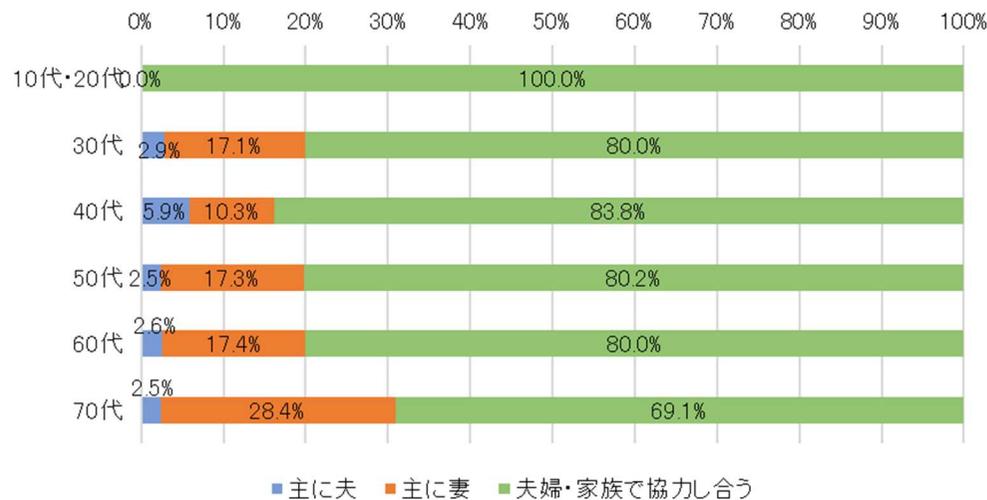
設問 4-b

⑤ 掃除

項目	回答数
主に夫	12
主に妻	70
夫婦・家族で協力し合う	311
無回答	0
合計	393



○ 年代による比較



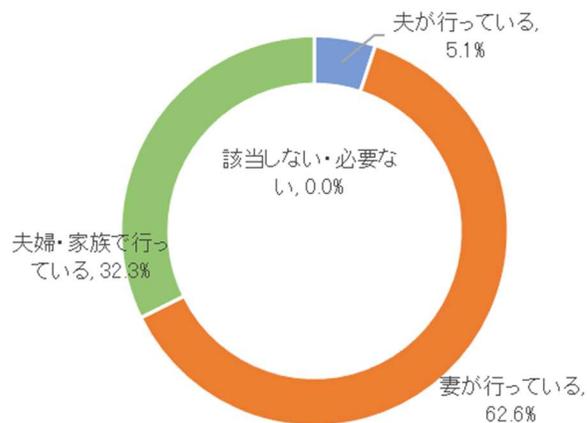
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が 79.1% となっていますが、設問 4-a (実際の家事分担) では、「妻が行っている」の割合が高く 52.8% となっています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、50 代以上の年代で「妻が行っている」の割合が高くなっています。

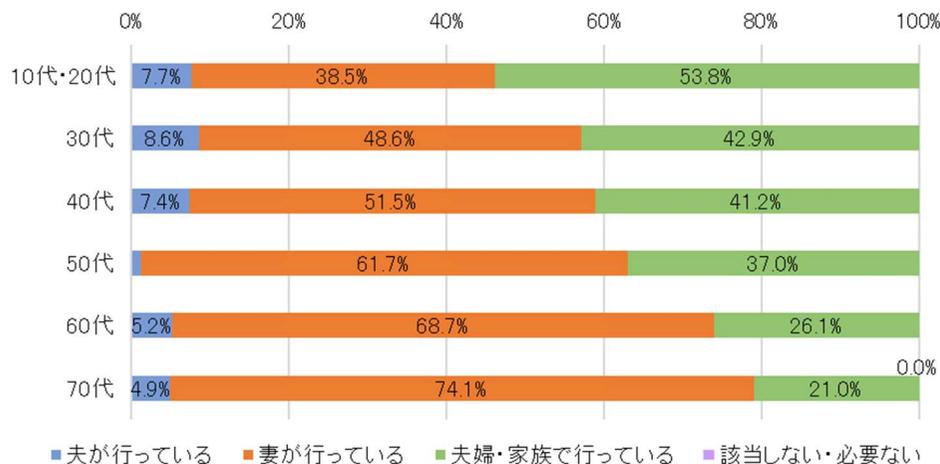
設問 4-a

⑥ 洗濯

項目	回答数
夫が行っている	20
妻が行っている	246
夫婦・家族で行っている	127
該当しない・必要ない	0
合計	393



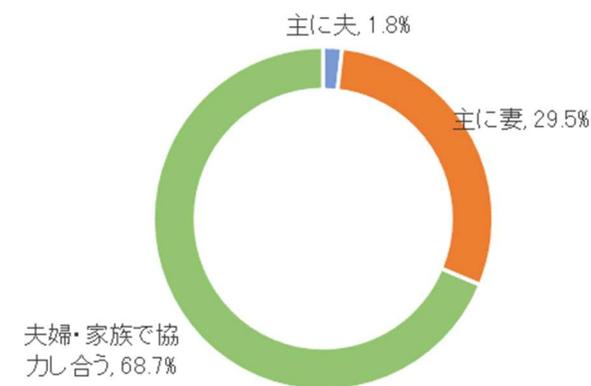
○ 年代による比較



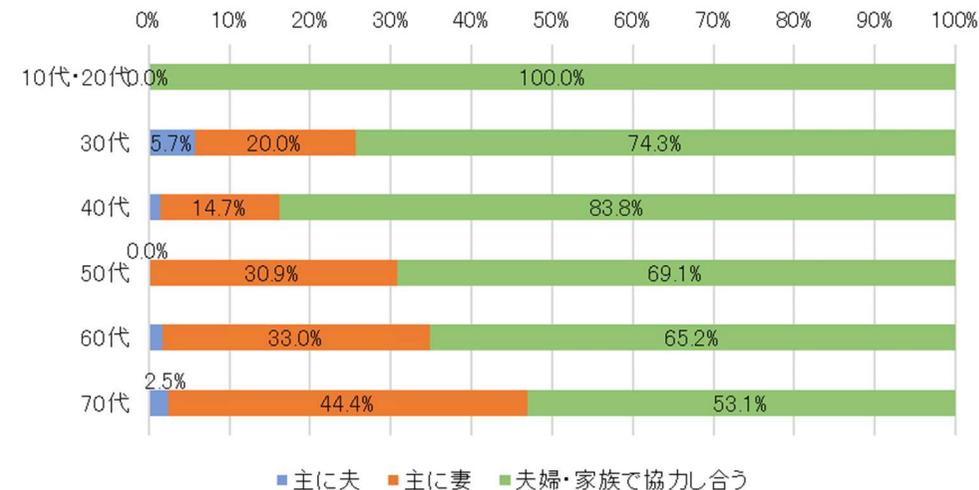
設問 4-b

⑥ 洗濯

項目	回答数
主に夫	7
主に妻	116
夫婦・家族で協力し合う	270
無回答	0
総計	393



○ 年代による比較



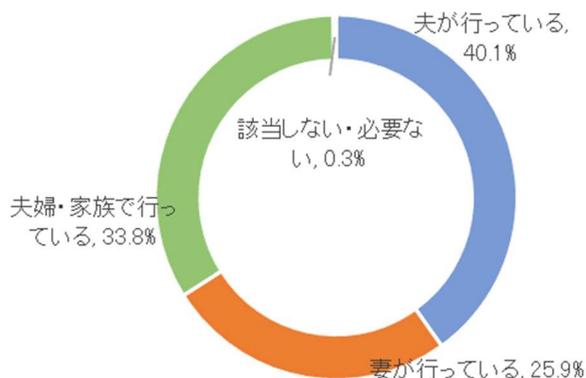
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が 68.7%となっていますが、設問 4-a (実際の家事分担) では、「妻が行っている」の割合が高く 62.6%となっています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、50 代以上の年代で「妻が行っている」の割合が高くなっています。

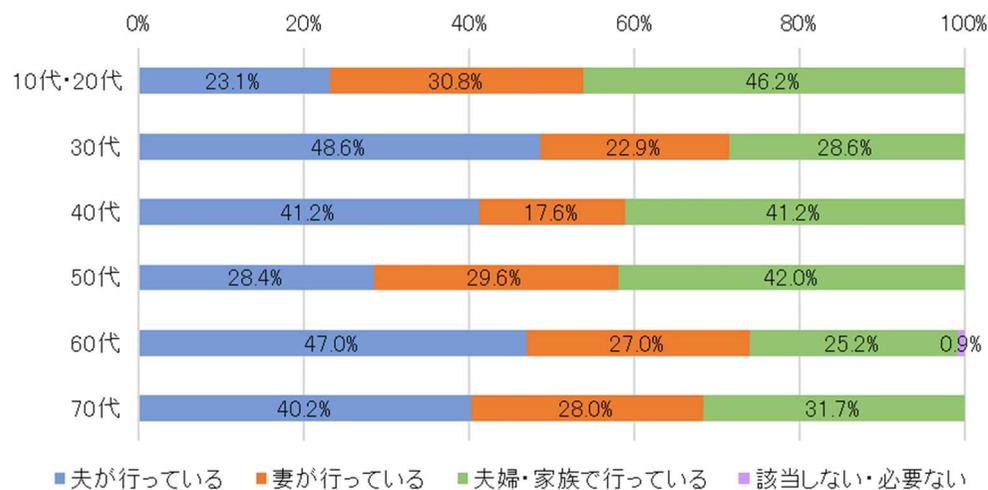
設問 4-a

⑦ ごみ出し

項目	回答数
夫が行っている	158
妻が行っている	102
夫婦・家族で行っている	133
該当しない・必要ない	1
合計	394



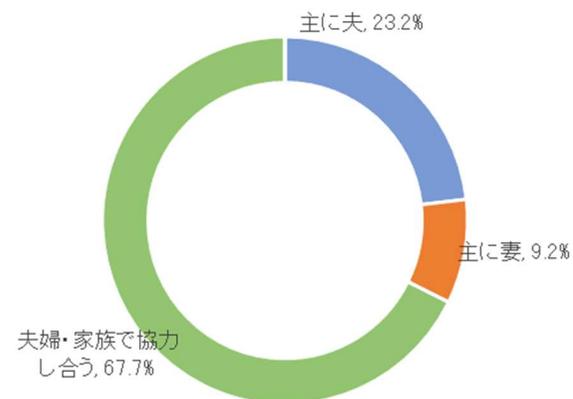
○ 年代による比較



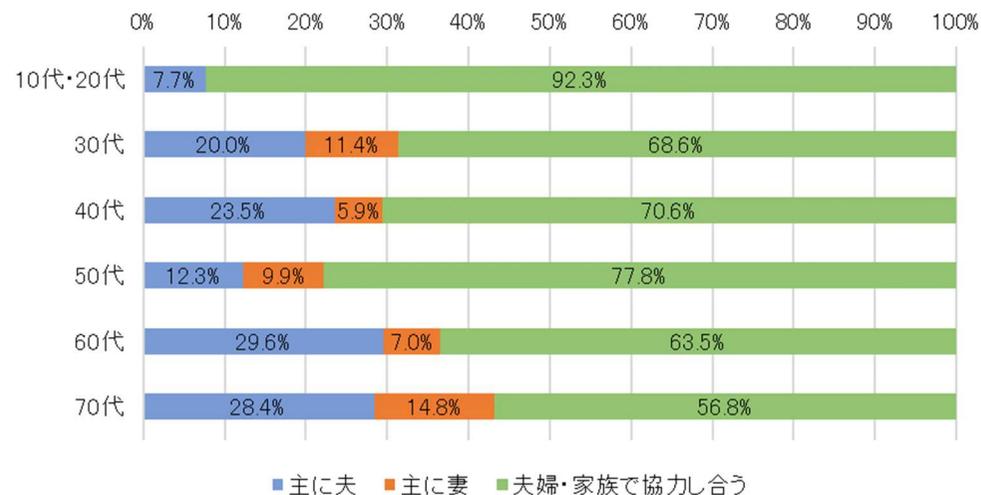
設問 4-b

⑦ ごみ出し

項目	回答数
主に夫	91
主に妻	36
夫婦・家族で協力し合う	266
無回答	0
総計	393



○ 年代による比較



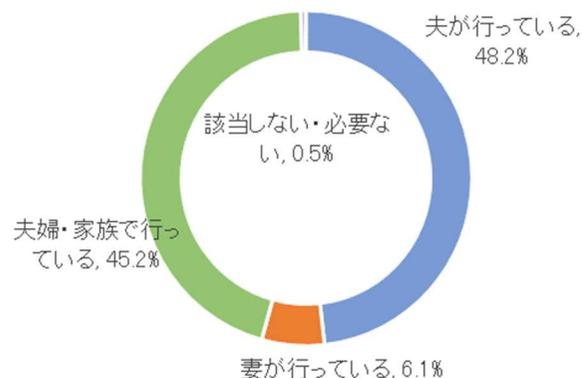
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が 67.7% となっていますが、設問 4-a (実際の家事分担) では、「夫が行っている」の割合が最も高く 40.1% となっています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、10代・20代及び 50代を除いて「夫が行っている」の割合が高くなっています。

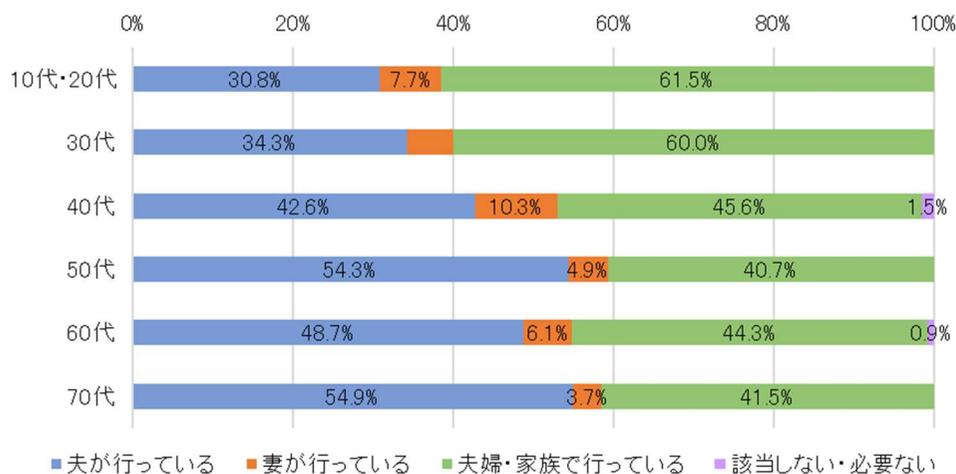
設問 4-a

⑧ 住宅や自家用車などの維持管理

項目	回答数
夫が行っている	190
妻が行っている	24
夫婦・家族で行っている	178
該当しない・必要ない	2
合計	394



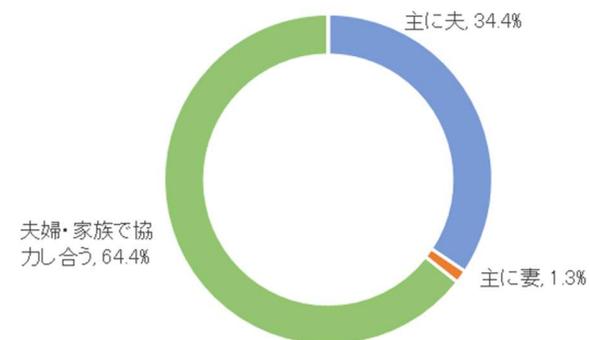
○ 年代による比較



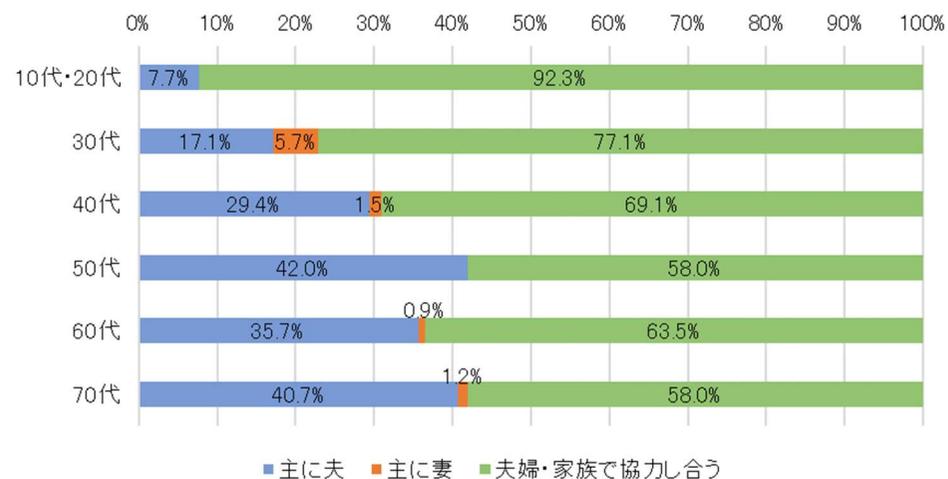
設問 4-b

⑧ 住宅や自家用車などの維持管理

項目	回答数
主に夫	135
主に妻	5
夫婦・家族で協力し合う	253
無回答	0
総計	393



○ 年代による比較



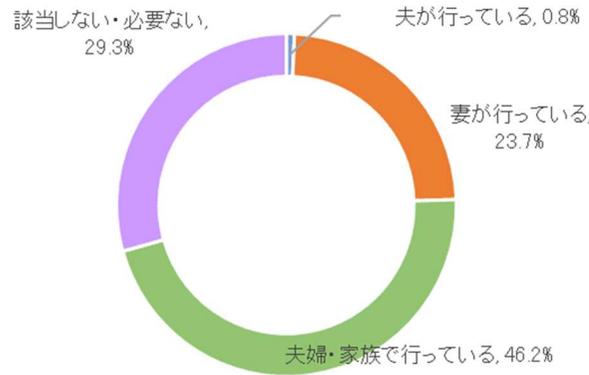
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が 64.4% となっていますが、設問 4-a (実際の家事分担) では、「夫が行っている」の割合が最も高く 48.2% となっています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、年代が高くなるにつれて「夫が行っている」の割合が高くなる傾向が見られます。

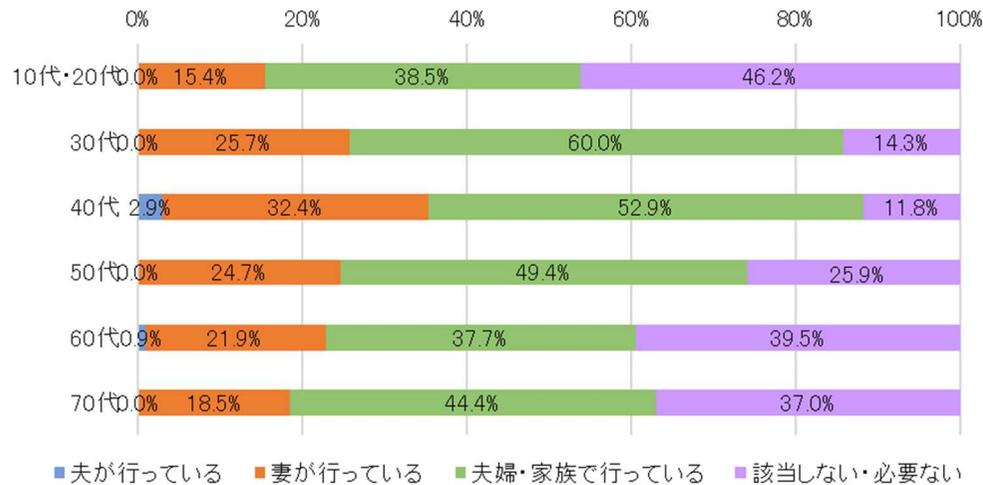
設問 4-a

⑨ 子どもの世話・教育

項目	回答数
夫が行っている	3
妻が行っている	93
夫婦・家族で行っている	181
該当しない・必要ない	115
合計	392



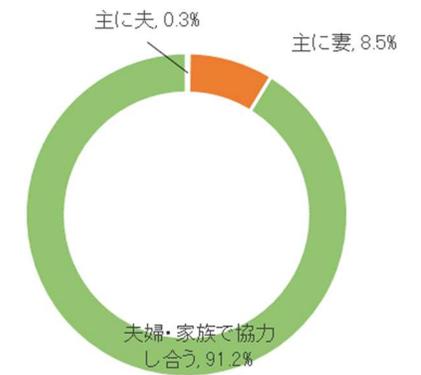
○ 年代による比較



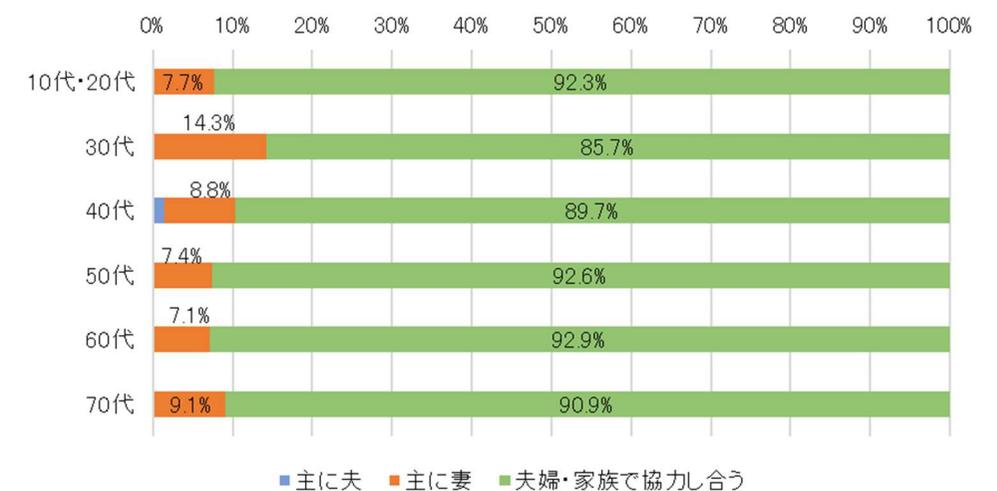
設問 4-b

⑨ 子どもの世話・教育

項目	回答数
主に夫	1
主に妻	33
夫婦・家族で協力し合う	353
無回答	0
総計	387



○ 年代による比較



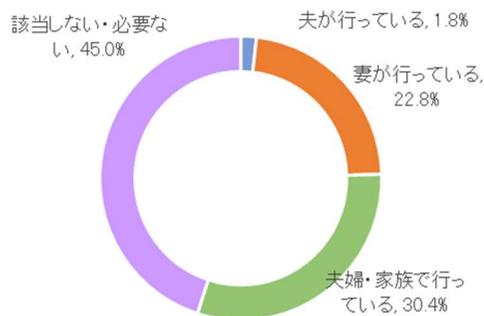
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が9割を超えています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、「夫が行っている」の割合が0.8%に対し、「妻が行っている」の割合が23.7%となっています。

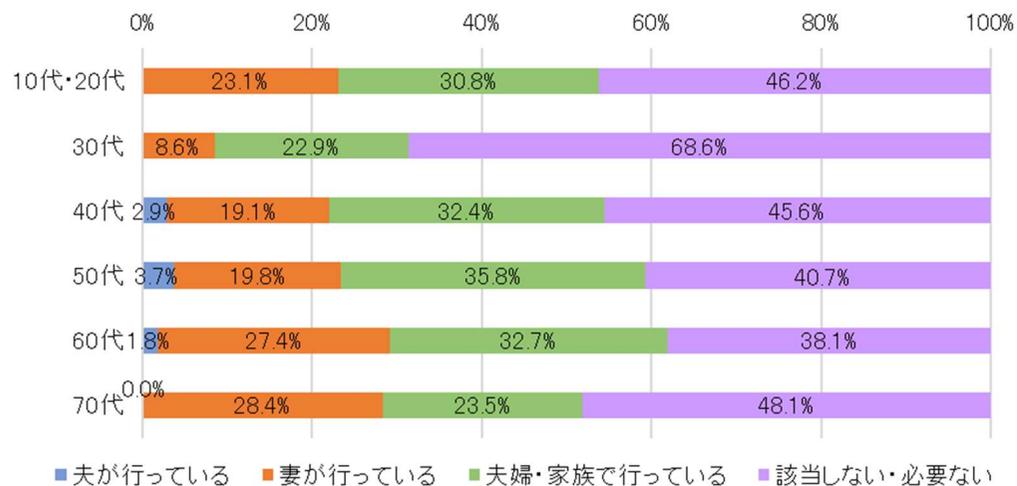
設問 4-a

⑩ 病人の世話や高齢者の介護

項目	回答数
夫が行っている	7
妻が行っている	89
夫婦・家族で行っている	119
該当しない・必要ない	176
合計	391



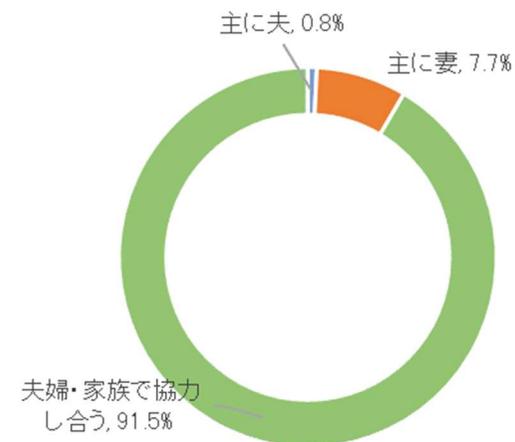
○ 年代による比較



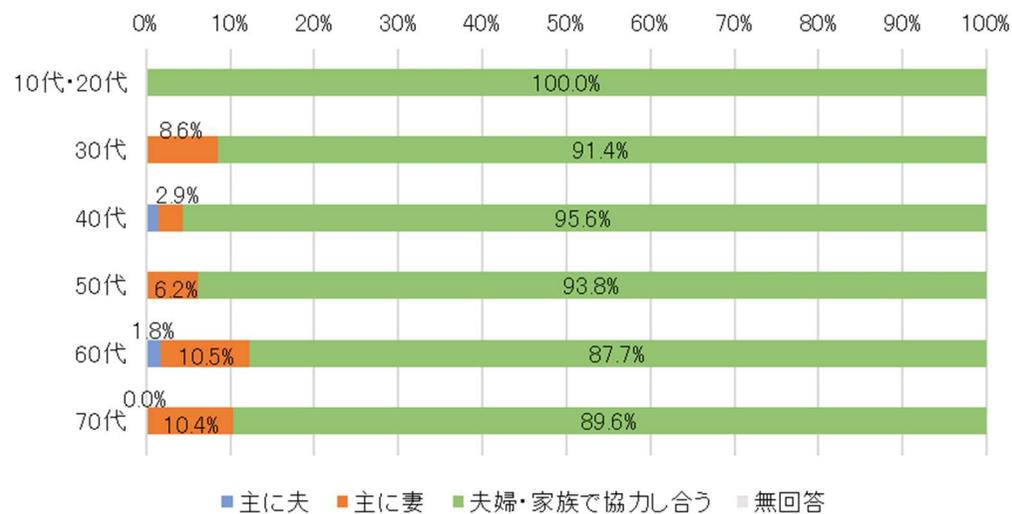
設問 4-b

⑩ 病人の世話や高齢者の介護

項目	回答数
主に夫	3
主に妻	30
夫婦・家族で協力し合う	355
無回答	0
総計	388



○ 年代による比較

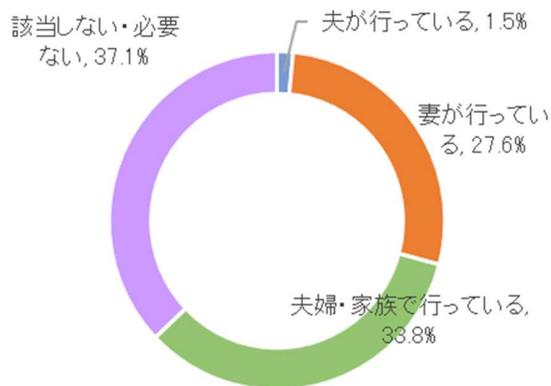


- 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」の割合の合計が9割を超えています。
- 設問 4-a (実際の家事分担) では、70代を除いて、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が最も高くなっています。

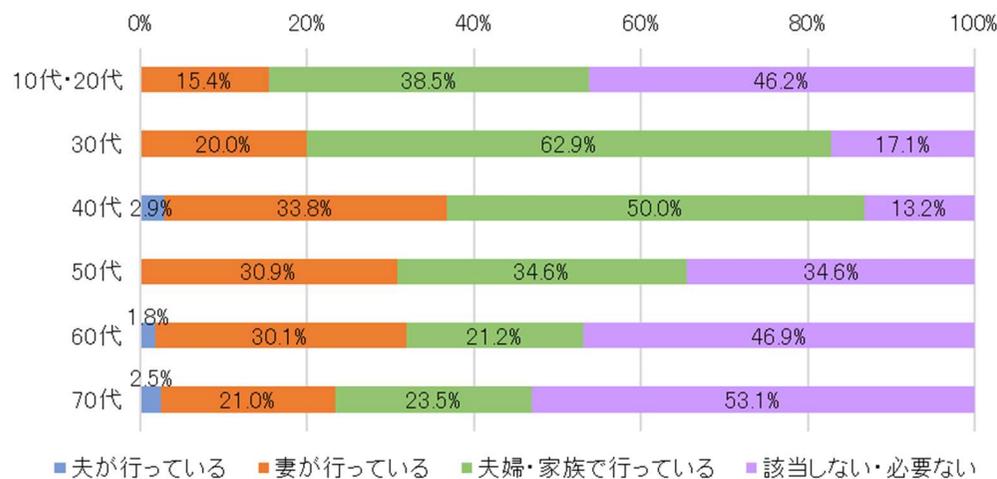
設問 4-a

⑪ 授業参観などの学校行事

項目	回答数
夫が行っている	6
妻が行っている	108
夫婦・家族で行っている	132
該当しない・必要ない	145
合計	391



○ 年代による比較



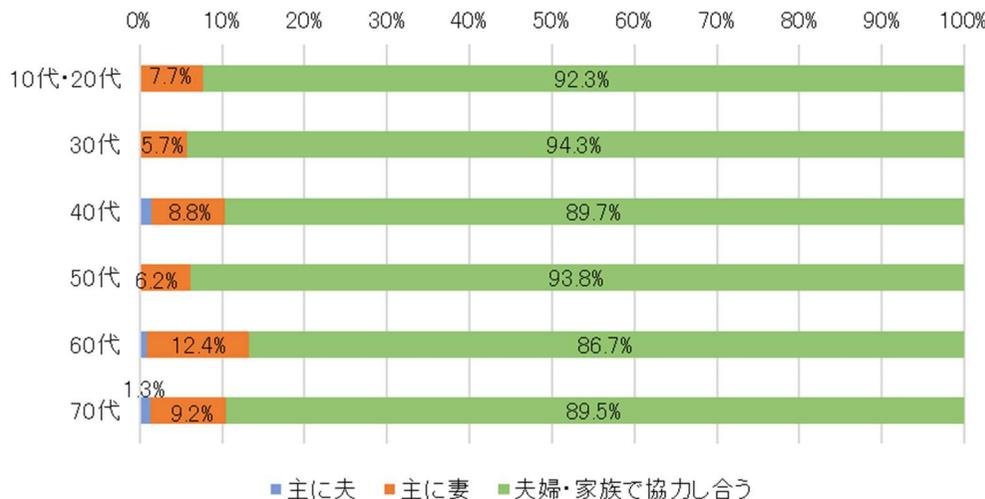
設問 4-b

⑪ 授業参観などの学校行事

項目	回答数
主に夫	3
主に妻	35
夫婦・家族で協力し合う	348
無回答	0
総計	386



○ 年代による比較



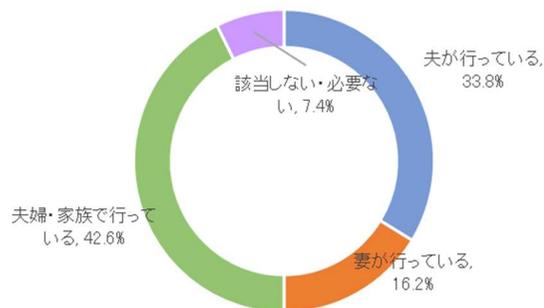
○ 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦・家族で協力し合う」が 90.2%となっています。

○ 設問 4-a (実際の家事分担) では、「夫が行っている」の割合が 1.5%に対し、「妻が行っている」の割合が 27.6%となっています。

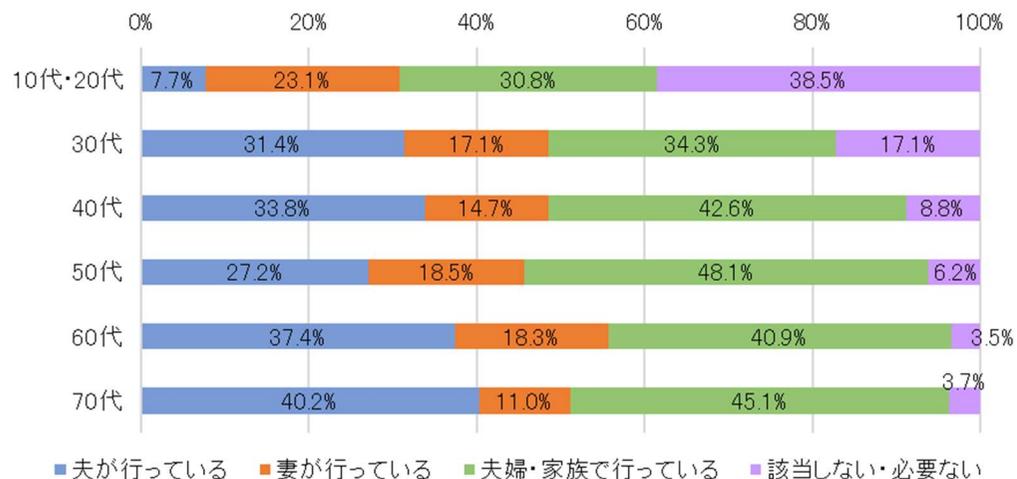
設問 4-a

⑫ 地域活動

項目	回答数
夫が行っている	133
妻が行っている	64
夫婦・家族で行っている	168
該当しない・必要ない	29
合計	394



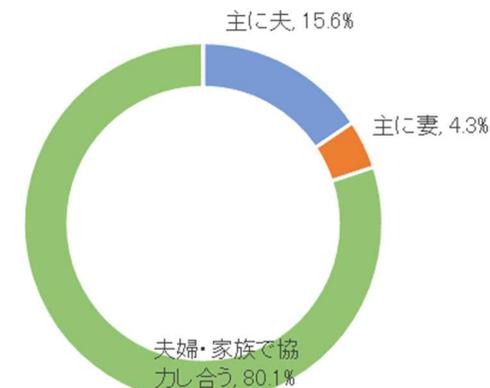
○ 年代による比較



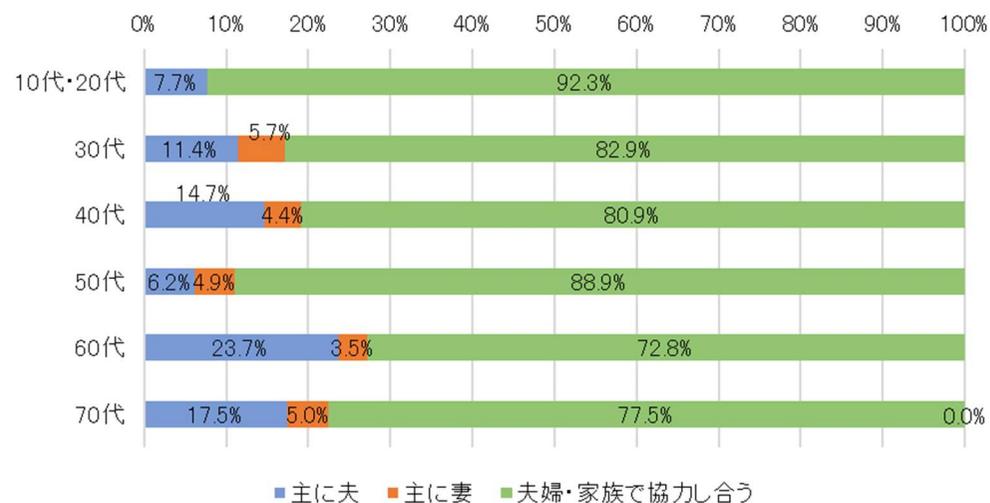
設問 4-b

⑫ 地域活動

項目	回答数
主に夫	61
主に妻	17
夫婦・家族で協力し合う	313
無回答	0
総計	391



○ 年代による比較



- 設問 4-b (家事分担の理想) では、「夫婦で協力し合う」「家族で協力し合う」の割合の合計が8割を超えています。
- 設問 4-a (実際の家事分担) では、「妻が行っている」の割合が16.2%に対し、「夫が行っている」の割合が33.8%となっています。

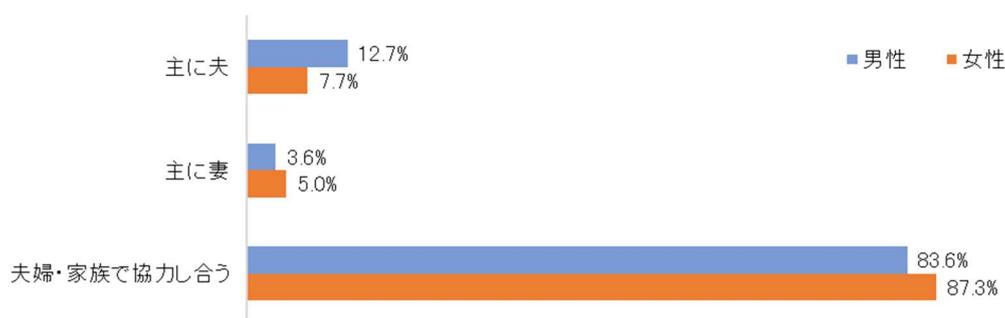
※ 男女別集計 配偶者・パートナーと同居している 391人
 男性：165人、女性：222人、その他：1人、答えたくない：3人

設問4-b

家庭での役割分担の理想について、次のようなことはどのような形が望ましいと思いますか。(1つ選択)

① 家計全体のやりくり

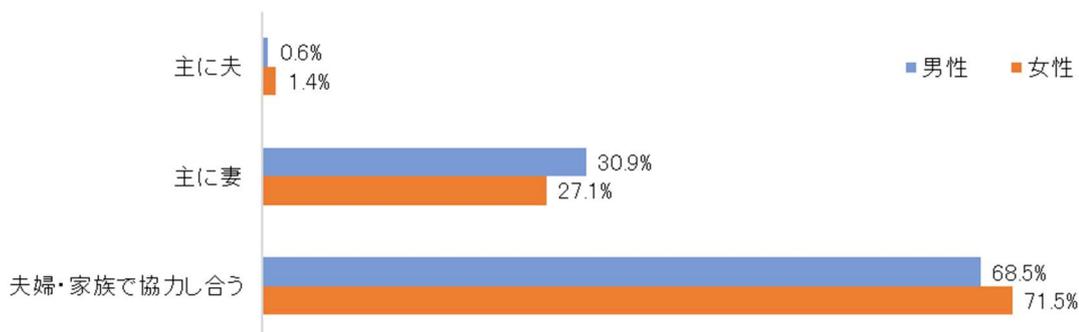
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	21	12.7%	17	7.7%
主に妻	6	3.6%	11	5.0%
夫婦・家族で協力し合う	138	83.6%	193	87.3%
全体	165	100.0%	221	100.0%



○ 男性、女性とも、同じような割合になっています。

② 日常の買い物

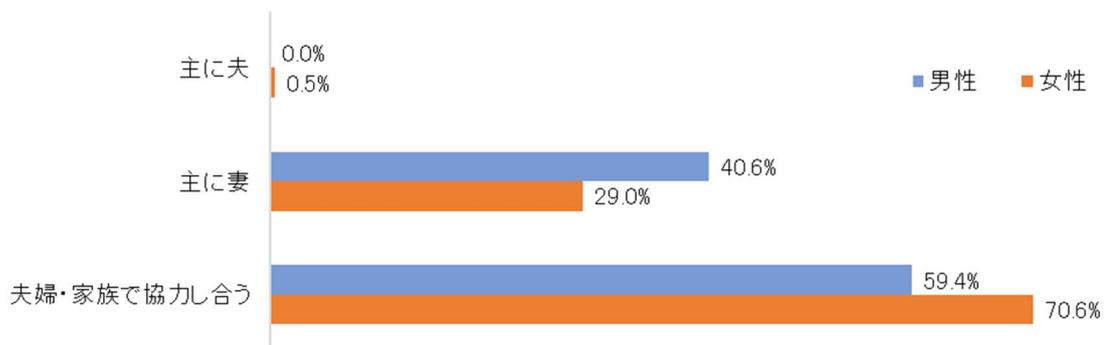
項目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	1	0.6%	3	1.4%
主に妻	51	30.9%	60	27.1%
夫婦・家族で協力し合う	113	68.5%	158	71.5%
全体	165	100.0%	221	100.0%



○ 男女とも、3割程度の人が、「主に妻」と回答しています。

③ 食事の支度

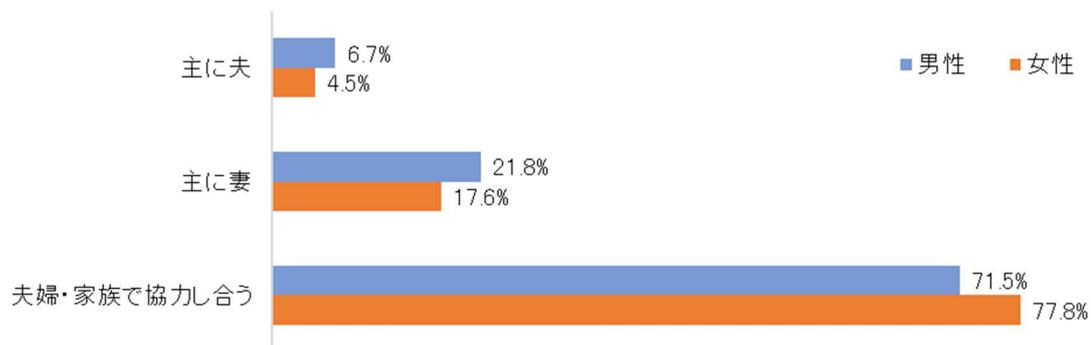
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	0	0.0%	1	0.5%
主に妻	67	40.6%	64	29.0%
夫婦・家族で協力し合う	98	59.4%	156	70.6%
全 体	165	100.0%	221	100.0%



○ 「主に妻」と回答した割合が、男女とも高くなっています。

④ 食事の後片付け

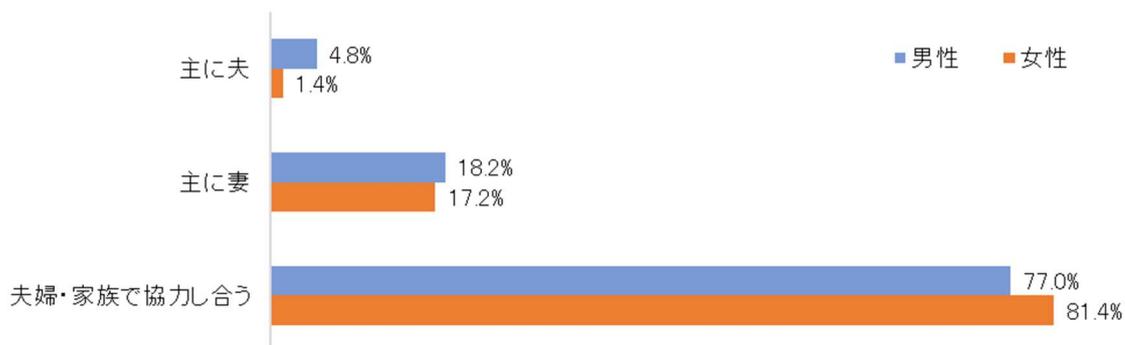
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	11	6.7%	10	4.5%
主に妻	36	21.8%	39	17.6%
夫婦・家族で協力し合う	118	71.5%	172	77.8%
全 体	165	100.0%	221	100.0%



○ 他の質問項目と比べて、「主に夫」とする回答が比較的多く見受けられます。

⑤ 掃除

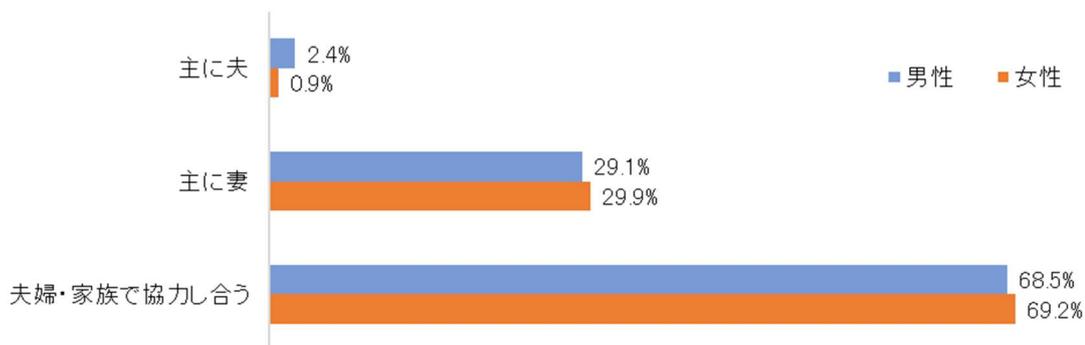
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	8	4.8%	3	1.4%
主に妻	30	18.2%	38	17.2%
夫婦・家族で協力し合う	127	77.0%	180	81.4%
全 体	165	100.0%	221	100.0%



○ 「主に妻」とする回答が、男女とも同程度あります。

⑥ 洗濯

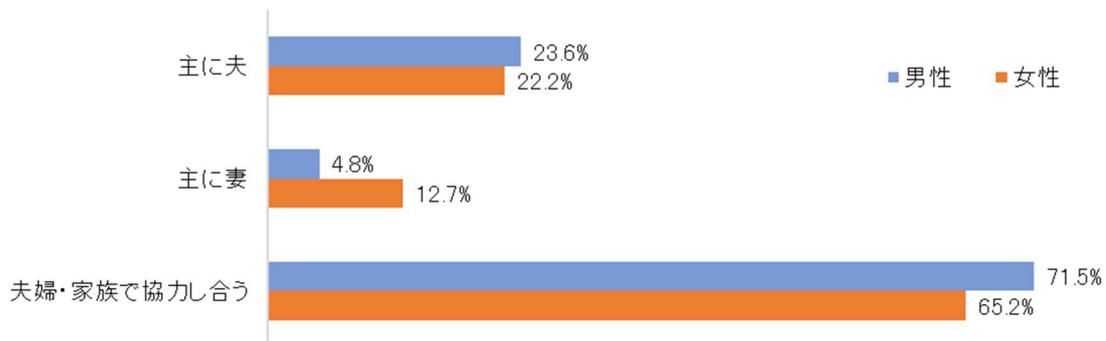
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	4	2.4%	2	0.9%
主に妻	48	29.1%	66	29.9%
夫婦・家族で協力し合う	113	68.5%	153	69.2%
全 体	165	100.0%	221	100.0%



○ 「主に妻」と回答した割合が、男女とも高くなっています。

⑦ ごみ出し

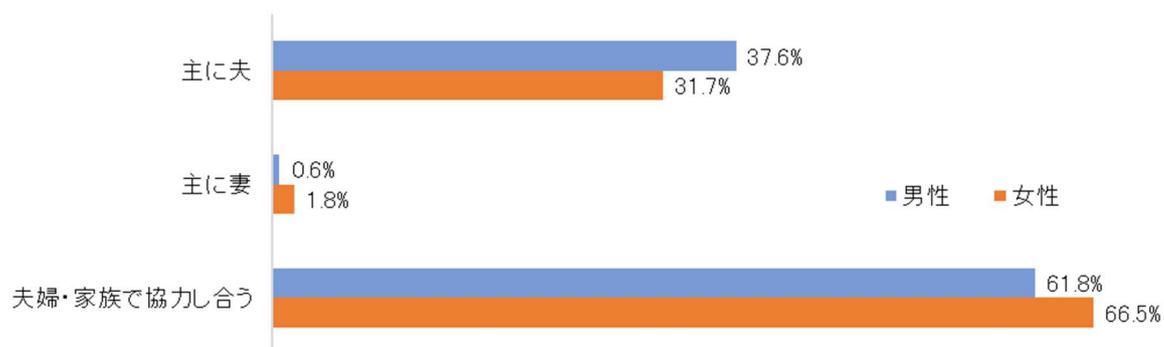
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	39	23.6%	49	22.2%
主に妻	8	4.8%	28	12.7%
夫婦・家族で協力し合う	118	71.5%	144	65.2%
全 体	165	100.0%	221	100.0%



○ 他の質問項目と比べて、「主に夫」とする回答が多く見受けられます。

⑧ 住宅や自家用車などの維持管理

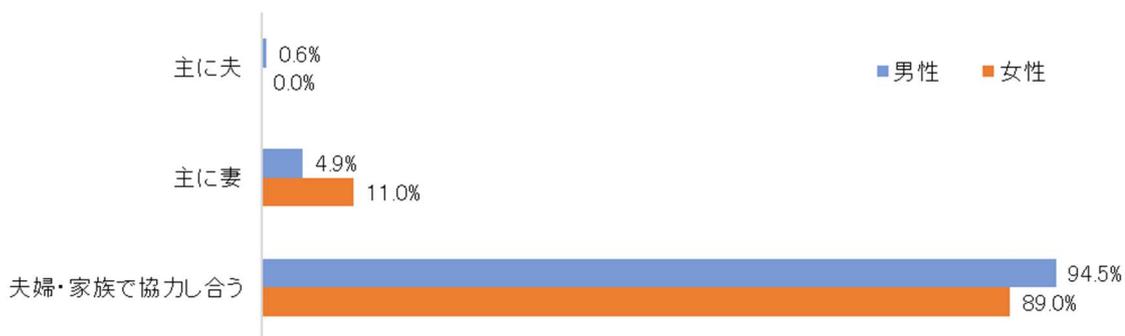
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	61	37.4%	54	27.8%
主に妻	0	0.0%	3	1.5%
夫婦・家族で協力し合う	65	39.9%	89	45.9%
全 体	163	100.0%	194	100.0%



○ 他の質問項目と比べて、「主に夫」とする回答が多く見受けられます。

⑨ 子どもの世話・教育

項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	1	0.6%	0	0.0%
主に妻	8	4.9%	24	11.0%
夫婦・家族で協力し合う	154	94.5%	194	89.0%
全 体	163	100.0%	218	100.0%



○ 男女とも、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が9割程度と高くなっています。

⑩ 病人の世話や高齢者などの介護

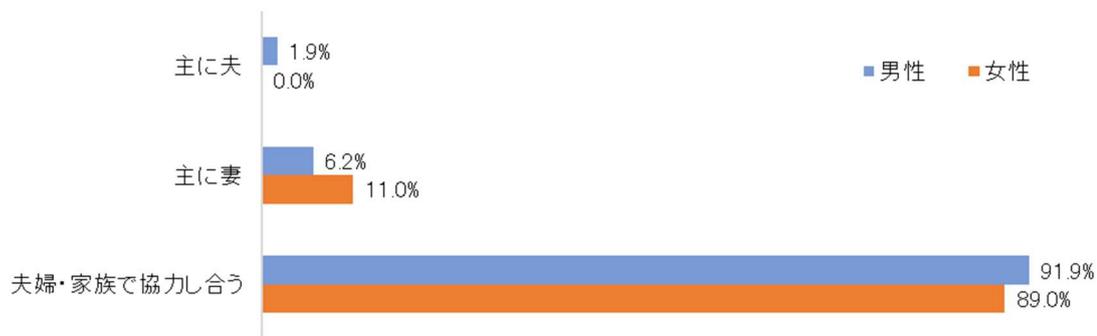
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	1	0.6%	2	0.9%
主に妻	8	4.9%	20	9.1%
夫婦・家族で協力し合う	153	94.4%	198	90.0%
全 体	162	100.0%	220	100.0%



○ 男女とも、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が9割程度と高くなっています。

⑪ 授業参観などの学校行事

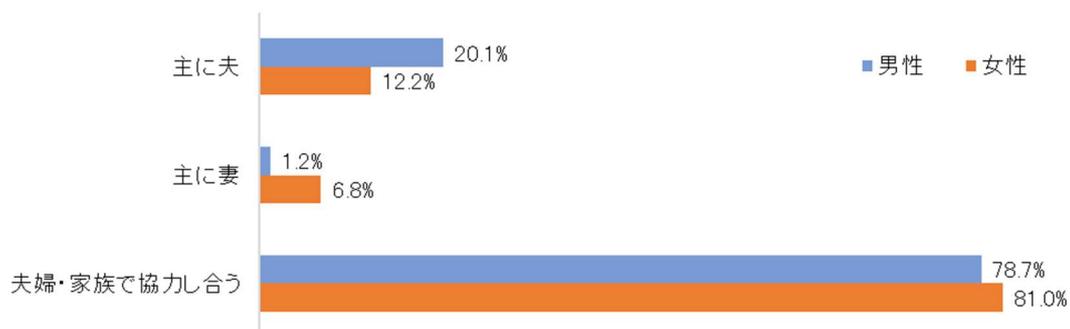
項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	3	1.9%	0	0.0%
主に妻	10	6.2%	24	11.0%
夫婦・家族で協力し合う	148	91.9%	195	89.0%
全 体	161	100.0%	219	100.0%



○ 男女とも、「夫婦・家族で協力し合う」の割合が9割程度と高くなっています。

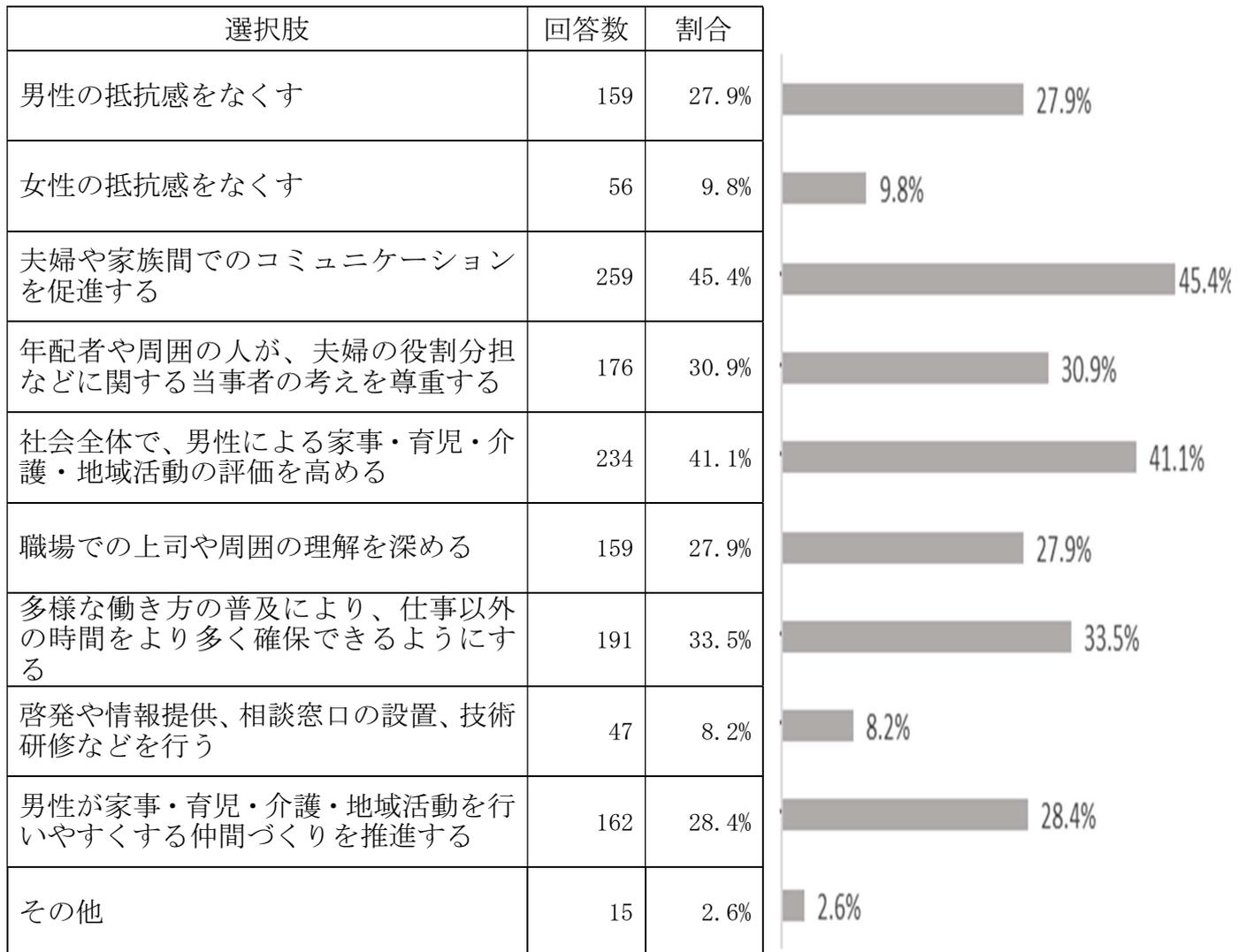
⑫ 地域活動

項 目	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
主に夫	33	20.1%	27	12.2%
主に妻	2	1.2%	15	6.8%
夫婦・家族で協力し合う	129	78.7%	179	81.0%
全 体	164	100.0%	221	100.0%



○ 「主に夫」と回答した割合が、「主に妻」の割合よりも高くなっています。

設問5 男女がともに家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるもの3つまで選択)



n=570

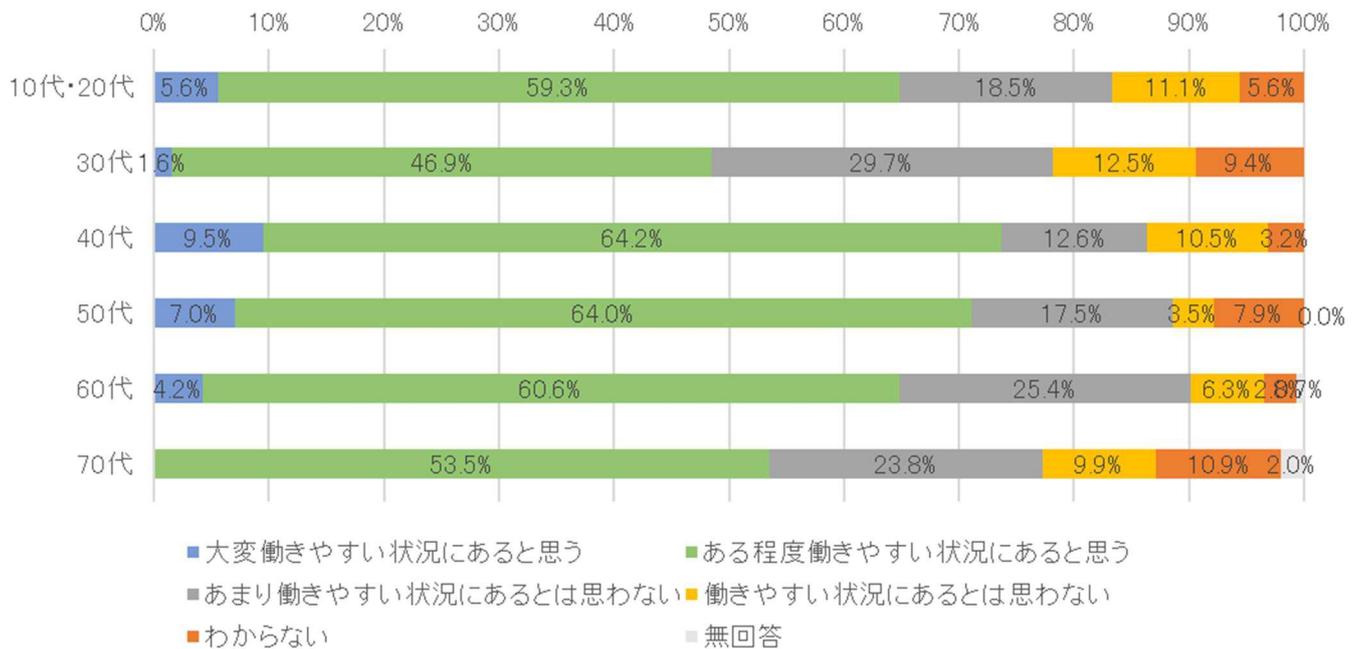
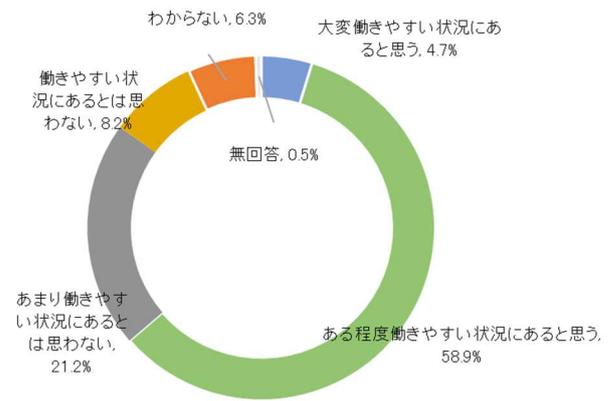
❖ その他の内容 (抜粋)

- ・ 男性が家事・育児に参加していくためには、SNS やチラシなどの広報によってネット上と地域の両方から認知を広めていくのが良いと思われる。
- ・ どちらがやるべきかと言う論議より、お互いの立場や状況を理解し合い、出来る方がやる事。できない時はお互いに譲歩し合いながら協力して最善を選択する。

○ 回答数は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを促進する」が最も多く、次いで、「社会全体で、男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」「多様な働き方の普及により、仕事以外の時間をより多く確保できるようにする」となっています。

設問6 現在の社会は、女性が働きやすい状況にあると思いますか。

項目	回答数	割合
大変働きやすい状況にあると思う	27	4.7%
ある程度働きやすい状況にあると思う	336	58.9%
あまり働きやすい状況にあるとは思わない	121	21.2%
働きやすい状況にあるとは思わない	47	8.2%
わからない	36	6.3%
無回答	3	0.5%
全体	570	100%



○ 「大変働きやすい状況にあると思う」及び「ある程度働きやすい状況にあると思う」の合計は63.6%となっています。

設問7 設問6で「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「働きやすい状況にあるとは思わない」と答えた方にお伺いします。それはどのような理由からでしょうか。(3つまで選択)

項目	回答数	割合
働く場が限られている	71	16.7%
能力発揮の場が少ない	25	5.9%
労働条件が整っていない	85	20.0%
育児施設が十分でない	67	15.7%
昇進、教育訓練等に男女の差別的取り扱いがある	61	14.3%
結婚・出産退職の慣行がある	37	8.7%
「男は仕事」「女は家庭」という社会通念がある	48	11.3%
家族の理解、協力が得にくい	29	6.8%
わからない	3	0.7%
全体	570	100%

設問8 女性の管理職登用やキャリア形成を進めるために、職場でどのような取り組みが必要だと思いますか。(3つまで選択)

項目	回答数	割合
管理職候補となる女性への研修や支援制度の充実	140	24.6%
性別に関係なく昇進・昇格の機会がある評価制度の整備	342	60.0%
ロールモデルとなる女性社員の紹介や情報発信	58	10.2%
育児・介護と両立しやすい働き方の導入(短時間勤務・テレワークなど)	332	58.2%
上司や職場全体の意識改革(研修・啓発など)	262	46.0%
女性の採用や配置の拡大	124	21.8%
その他	14	2.5%
総計	1272	

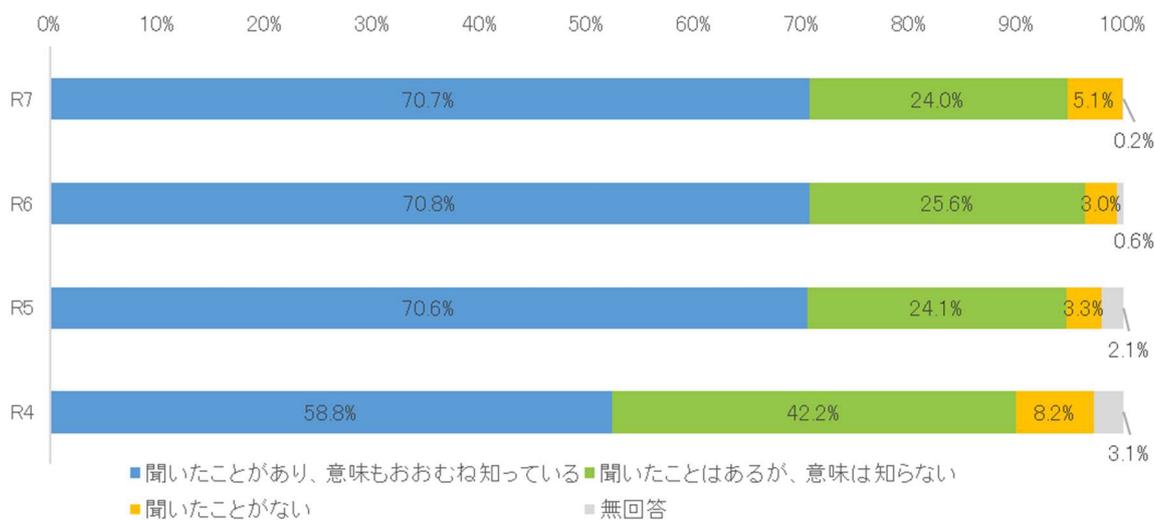
❖ その他の内容(抜粋)

- ・ 男女関係なく、能力のある人が登用されるもので、無理に登用するものではない。登用されたければそれぞれ個人が努力するもの。
- ・ 女性の管理職登用率を上げるためだけに、望まない管理職登用や経験不足のままの昇進などがないようにする。(男性も同様)
- ・ 女性だからある程度優遇されて当然と思ひ込む事、男性が優遇されて当然だと思わない事、あくまで性別問わず、実力と責任感を問う姿勢が必要と思う。互いに立場に甘えない姿勢で何事も取り組む。相手の立場を尊重する。

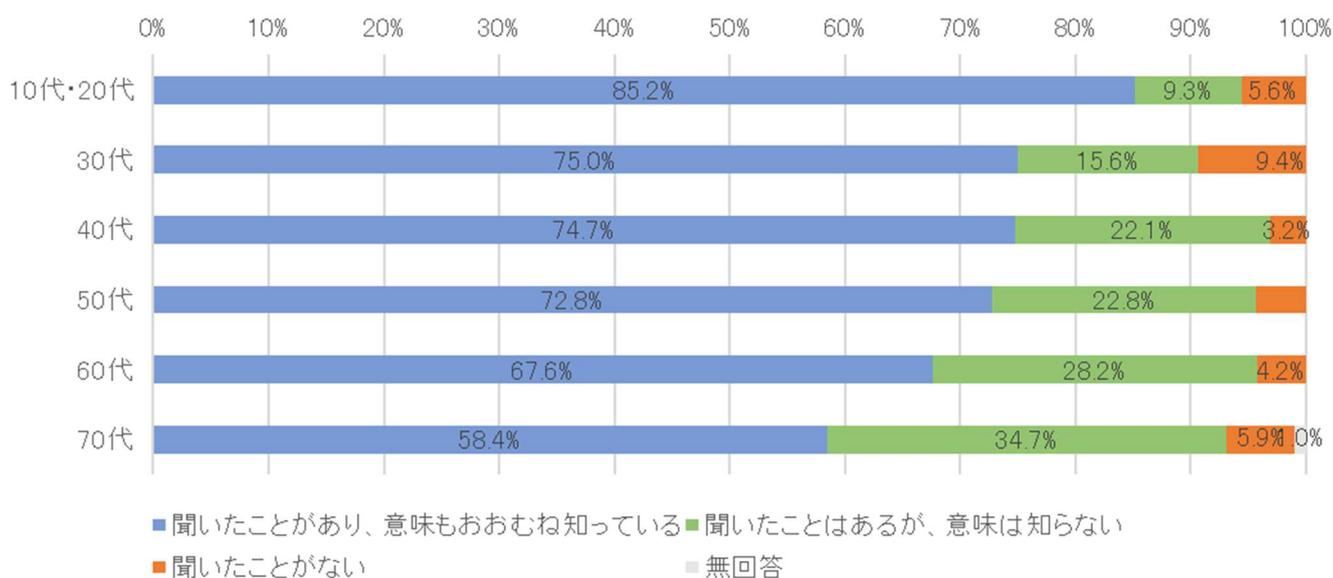
○ 最も多かった回答は、『性別に関係なく昇進・昇格の機会がある評価制度の整備』で、全体の60.0%を占めました。次いで、『育児・介護と両立しやすい働き方の導入(短時間勤務・テレワークなど)』が58.2%、『上司や職場全体の意識改革(研修・啓発など)』が46.0%となっています。

設問9 性的指向や性自認など、性のあり方にはさまざまな形があります。現在、LGBTQ+（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィアなど）をはじめとする多様な性のあり方への理解と尊重が、社会全体で求められております。「LGBTQ+」や「性的マイノリティ」という用語について、あてはまるものをお選びください。（1つ選択）

選択肢	回答数	割合
聞いたことがあります、意味もおおむね知っている	403	70.7%
聞いたことはあるが、意味は知らない	137	24.0%
聞いたことがない	29	5.1%
無回答	1	0.2%
計	570	



○ 年代による比較



○ 「聞いたことがあります、意味もおおむね知っている」の割合が70.7%となっており、前回調査70.8%と同水準となっています。

○ 10代・20代では、「聞いたことがあります、意味もおおむね知っている」が85.2%と高くなっています。

設問 10 設問 9 で「1. 聞いたことがあり、意味も知っている」と答えた方にお聞きします。今後、多様な性への理解を進めるために何が重要だと思いますか。（あてはまるもの 3 つまで選択）

選択肢	回答数	割合	
パートナーを証明する制度（パートナーシップ宣誓制度）の周知・啓発	147	36.5%	
差別を禁止する条例などの制定	93	23.1%	
更衣室やトイレ、制服など男女で区別されていることに配慮した社会環境の改善	158	39.2%	
性同一性障害などの性別違和の方に配慮した申請書類等の性別記載欄の見直し	105	26.1%	
市民や企業などへの広報・啓発	65	16.1%	
行政職員や教職員に対する研修の充実	69	17.1%	
学校などでの教育の充実	184	45.7%	
相談窓口の設置	74	18.4%	
特に必要ない	41	10.2%	
その他	7	1.7%	
無回答	0	0.0%	

n = 403

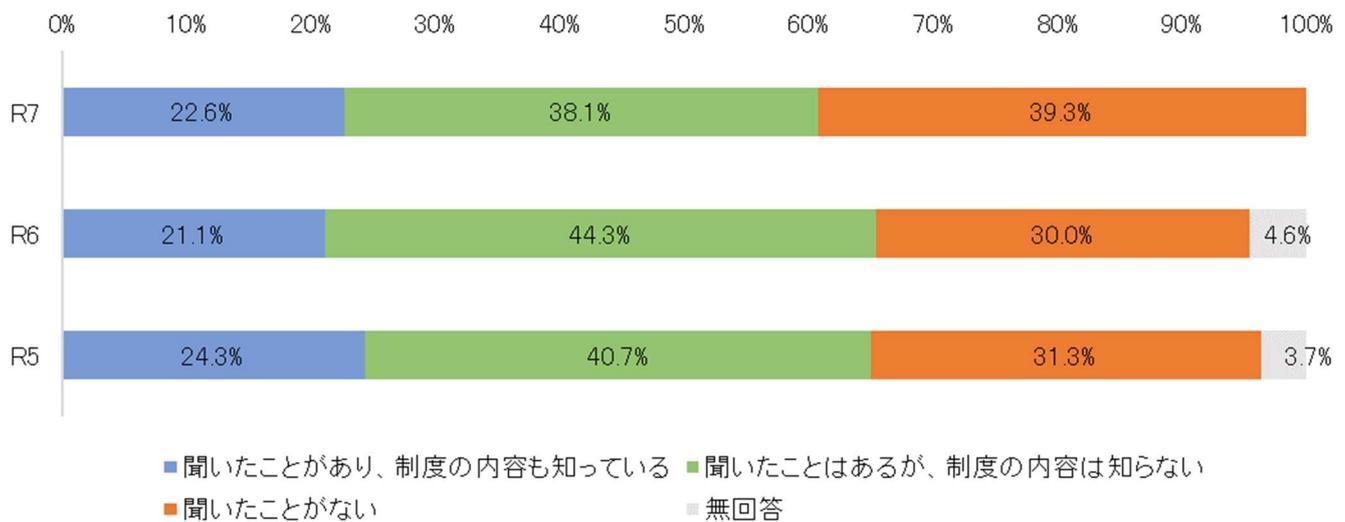
❖ その他の内容（抜粋）

- ・ 男性同士、女性同士の結婚を認める
- ・ 意味は知っているが、それが正しい在り方だとは思わない。LGBTQ+を差別するのは良くないし、そういう人たちがいるという理解はするべきだと思うが、社会全体がそれに振り回されるべきではないと思う
- ・ 他人が理解する必要は無いと思うし、合わせる必要は無い。人はそもそも十人十色。

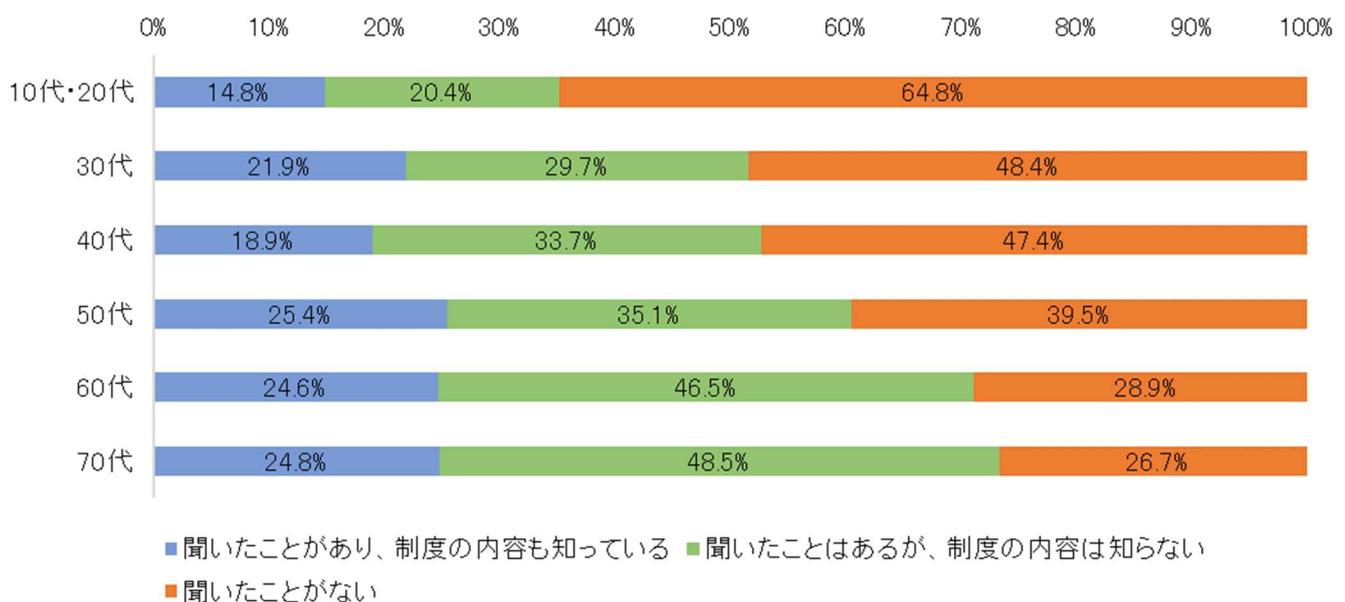
○ 「学校などでの教育の充実」が最も多く、次いで「更衣室やトイレ、制服など男女で区別されていることに配慮した社会環境の改善」「パートナーを証明する制度の周知・啓発」が続いています。

設問 11 一関市が令和4年12月に導入した「いちのせきパートナーシップ宣誓制度」について、
 あてはまるものをお選びください。

選択肢	回答数	割合
聞いたことがあり、制度の内容も知っている	129	22.6%
聞いたことはあるが、制度の内容は知らない	217	38.1%
聞いたことがない	224	39.3%
無回答	0	0.0%
計	570	



○ 年代による比較



- 「聞いたことがあり、制度の内容も知っている」の割合が22.6%と、前回調査を1.5ポイント上回りました。
- 10代・20代、30代で、「聞いたことがない」の割合が高くなっています。

設問 12 東日本大震災などの教訓を踏まえ、災害への備えや対応には、性別に配慮した防災の視点が重要だと言われています。以下のうち、必要だと思う取り組みをお選びください。（3つまで選択）

選択肢	回答数	割合
男女ともに防災訓練や防災研修会に参加する	158	27.7%
日頃から地域の男女共同参画を推進する	101	17.7%
地域の消防団や自主防災組織における女性の参画を促進する	53	9.3%
防災に関する知識の普及において、災害時に男女で異なる影響やニーズの違いへの理解を深める	225	39.5%
男女別のニーズの違いを踏まえた物資の備蓄を行う	261	45.8%
男女別のニーズに配慮した避難所運営マニュアルを作成する	166	29.1%
避難所運営の際に女性リーダーを配置するなど、役割を男性に固定せず分担する	193	33.9%
更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う	339	59.5%
その他	6	1.1%
総計	1,502	

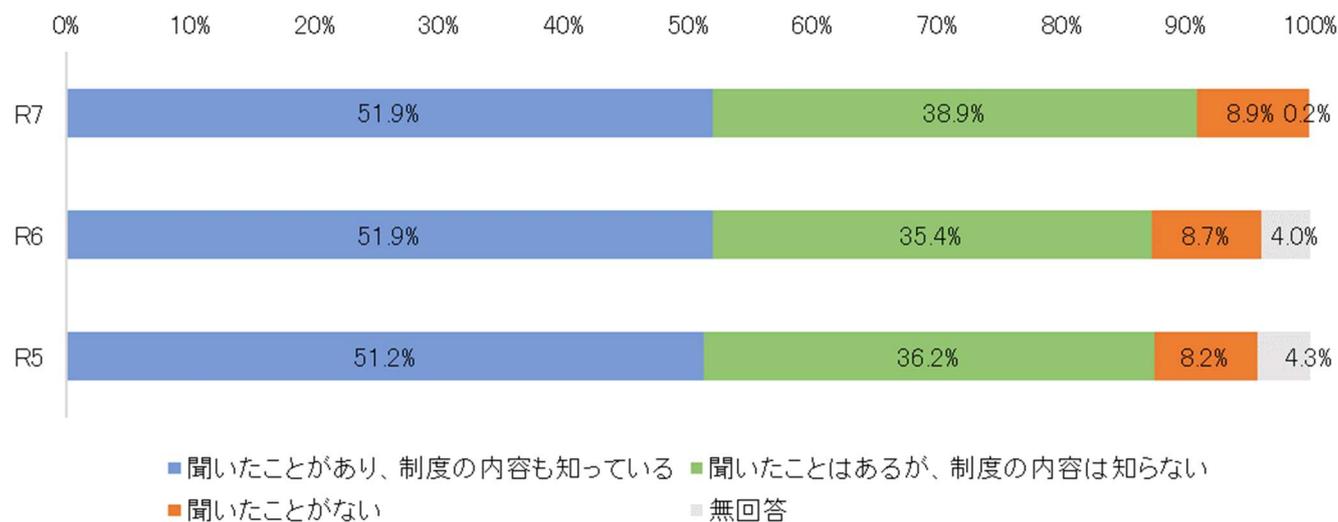
n = 570

❖ その他の内容（抜粋）

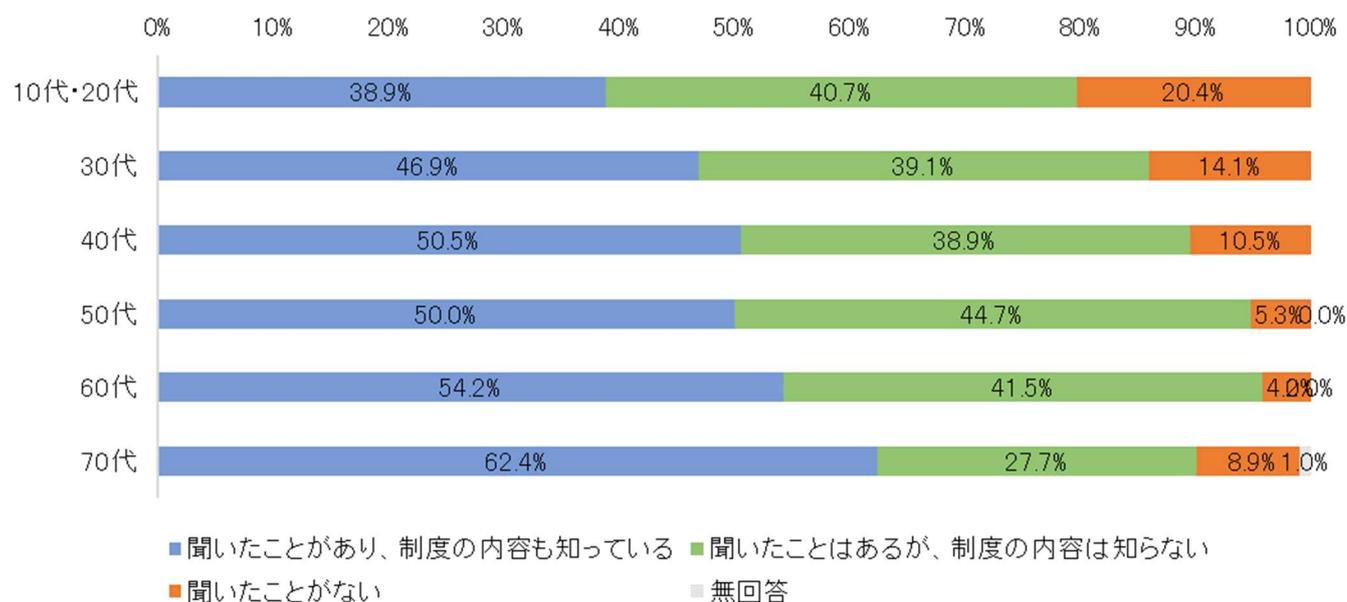
- ・ 有事であることを理解し、多くを望みすぎず、謙虚に慎ましく逞しく支え合う姿勢の醸成
- ・ 避難所は男女別の場所を作るべきだと思います。
- ・ 被災しても家の代わりになるような自動車の購入補助金を用意する。
- ・ 個人ではなく家族の空間の確保

設問 13 「配偶者暴力防止法」「DV防止法」（配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律）について、あてはまるものをお選びください。

選択肢	回答数	割合
聞いたことがあります、内容も知っている	296	51.9%
聞いたことはあるが、内容は知らない	222	38.9%
聞いたことがない	51	8.9%
無回答	1	0.2%
計	570	



○ 年代による比較

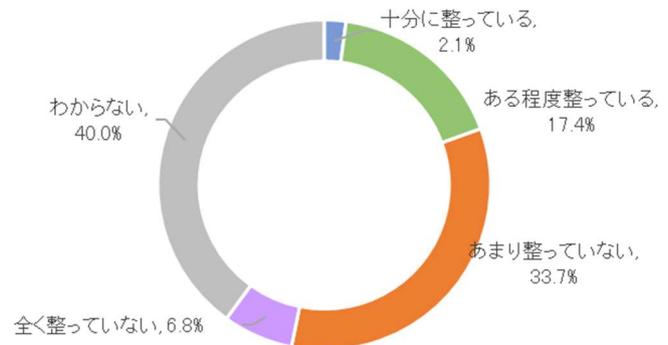


○ 「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合が51.9%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」の割合が38.9%であり、DV防止法の名称または内容を知っている人の割合は、90.8%となっています。

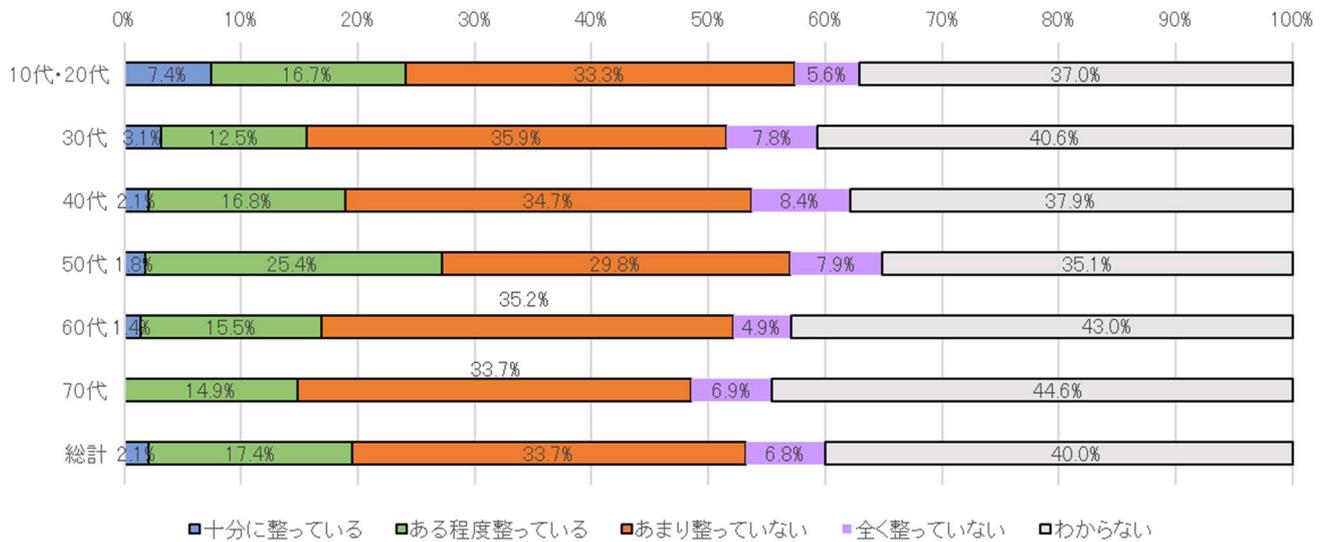
○ 40代以下の世代で、「聞いたことがない」の割合が高くなっています。

設問 14 令和6年4月から、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。あなたの身の回りでは、経済的な困難、家庭内の問題、性暴力・DV、孤立など、さまざまな理由で日常生活に困難を抱えている女性が支援を受けられる環境が整っていると思いますか。

選択肢	回答数	割合
十分に整っている	12	2.1%
ある程度整っている	99	17.4%
あまり整っていない	192	33.7%
全く整っていない	39	6.8%
わからない	228	40.0%
計	570	100.0%



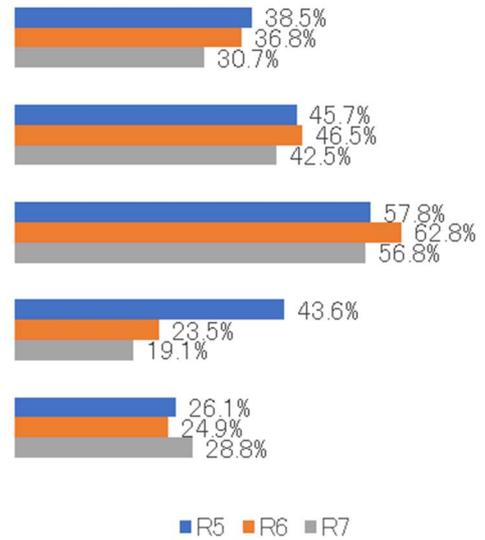
○ 年代による比較



○ 「十分に整っている」及び「ある程度整っている」の割合の合計は約2割、「あまり整っていない」及び「全く整っていない」の割合の合計は約4割となっており、「わからない」と回答した人も4割となっています。

設問 15 DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者やパートナーに対する身体的・心理的・経済的・性的暴力、社会的隔離）を防止するためにどのような支援があるか、知っているものをお選びください。（あてはまるものすべて選択）

選択肢	回答数	割合
被害者支援の関連法律（配偶者暴力防止法）がある	175	30.7%
人権相談窓口がある	242	42.5%
警察で相談、保護を行っている	324	56.8%
配偶者暴力相談支援センターがある	109	19.1%
どのような支援があるか知らない	164	28.8%



n = 570

- 前回調査と同じ傾向となっており、「警察で相談保護を行っている」が最も多く、次いで、「人権相談窓口がある。」となっています。